

日向灘で発生する 地震・津波及び被害の想定について

(被害想定結果の位置付け)

今回の被害想定は、日向灘で発生する地震・津波について、最新のデータ（建築物や人口、ライフライン等のデータ、津波避難意識アンケート結果等）に基づき、計算したものである

令和 3 年 3 月

宮 崎 県

目 次

はじめに.....	1
第1章 津波浸水想定	3
第2章 地震動想定	9
第3章 被害想定.....	12
第4章 減災効果.....	23
※被害想定の内訳.....	28

はじめに

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする巨大な海溝型地震「東北地方太平洋沖地震」は、東北地方から関東地方にかけての太平洋沿岸部を中心に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命を奪う未曾有の大災害となりました。

長く続く強い揺れ、そして、その後にやってきた巨大津波。私たちは自然の脅威を改めて認識することになりました。

一方、静岡県駿河湾から日向灘まで延びる南海トラフと呼ばれる海溝でも、歴史上たびたび南海地震（M8クラス）や日向灘地震（M7クラス）などが発生していることから、国（内閣府）^{1,2,3}は、「東北地方太平洋沖地震」を踏まえ、南海トラフで科学的に考えられる最大クラスの地震予測として、平成24～25年度にかけて、南海トラフ内全体でM9クラスの地震が発生した場合の震度分布や津波高、各種被害の想定を公表しました。さらに、令和元年6月、国（内閣府）^{4,5}は「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」のフォローアップとして、最新のデータ（建築物や人口、ライフライン等のデータ、津波避難意識アンケート結果等）に基づき、各種被害の想定を再計算し公表しました。

このような巨大地震・津波は、本県はもちろんのこと、西日本を中心に東日本大震災を超える甚大な人的・物的被害が発生し、我が国全体の国民生活・経済活動に極めて深刻な影響が生じる、まさに国難とも言える大規模災害になるものと想定されます。

このことから、これまで実施してきた取り組みに引き続き、巨大地震・津波に対しては、何よりも「命を守る」ことを基本として、被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方が重要であり、防災教育や防災に関する啓発等により住民の自助、共助の取組を強化していくとともに、建物の耐震化や海岸保全施設、避難施設及び防災施設の整備等のハード対策と、素早く確実な情報伝達や避難訓練等のソフト対策を総合的に取り組みながら、住民一人ひとりが主体的かつ迅速に避難行動が取れるよう対策を講じていかなければなりません。

このため、本県では、平成25年10月の県の想定、国（内閣府）の想定を踏まえながら、県内の現況を可能な限り反映させ、地震・津波に関するより詳細な予測を行うとともに、それらに起因する各種被害の想定を行い、県内外の有識者による宮崎県防災会議地震専門部会⁶での審議を踏まえ、防災対策の基礎資料として取りまとめました。令和元年度の想定では、平成25年以降の防災対策の取り組みの効果を把握しました。今回、より発生頻度の高く県民の意識も高い日向灘で発生するM7クラスの地震を対象に想定を実施し、「新・宮崎県地震減災計画」の改訂および今後の地震防災対策の基礎資料として取りまとめました。

今後、この資料をもとに市町村や九州各県、関係機関とも連携し、自助、共助、公助のバランスのとれた、短期・中期・長期の対策に総合的に取り組むこととしております。

¹ 内閣府 南海トラフの巨大地震モデル検討会（2012）：南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）

² 内閣府 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（2012）：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）（平成24年8月29日発表）

³ 内閣府 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（2013）：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第二次報告）（平成25年3月18日発表）

⁴ 内閣府 【参考】南海トラフ巨大地震の被害想定（建物被害・人的被害）（再計算）（令和元年6月）

⁵ 内閣府 【参考】南海トラフ巨大地震の被害想定（施設等の被害・経済的な被害）（再計算）（令和元年6月）

⁶ 令和元年度宮崎県地震専門部会専門委員については、P.30に記載

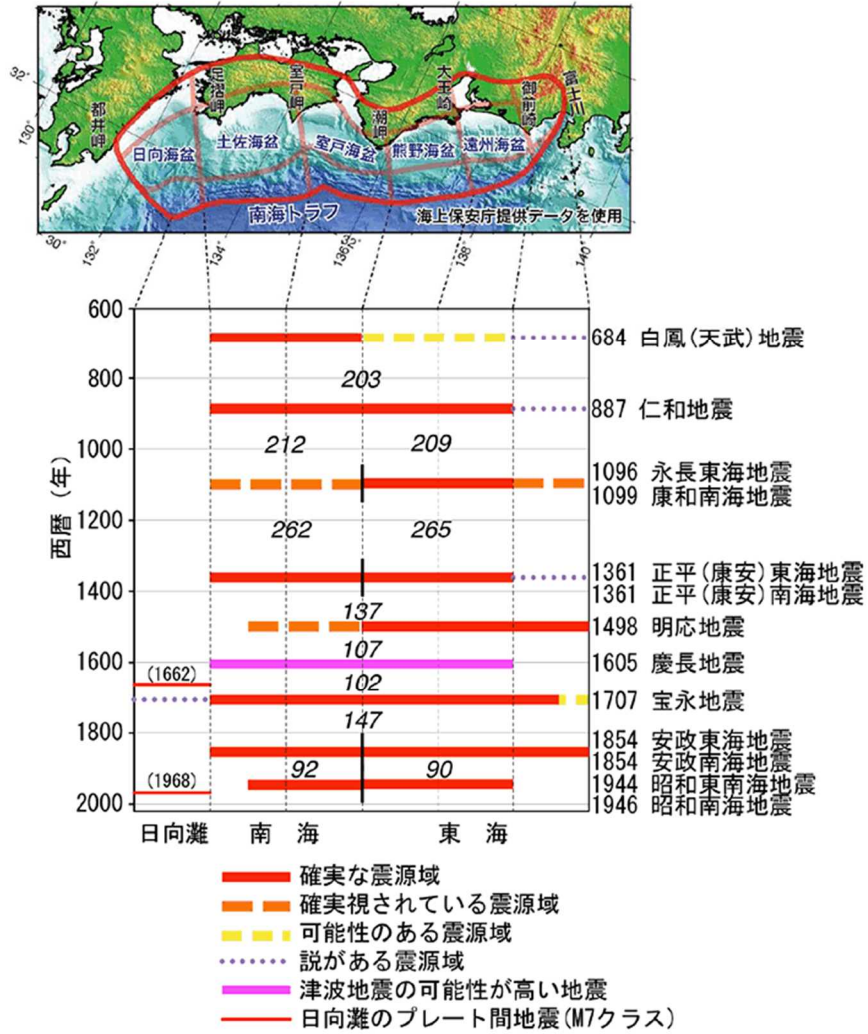


図1 南海トラフ沿いの地震の発生状況 (出典：地震調査研究推進本部)

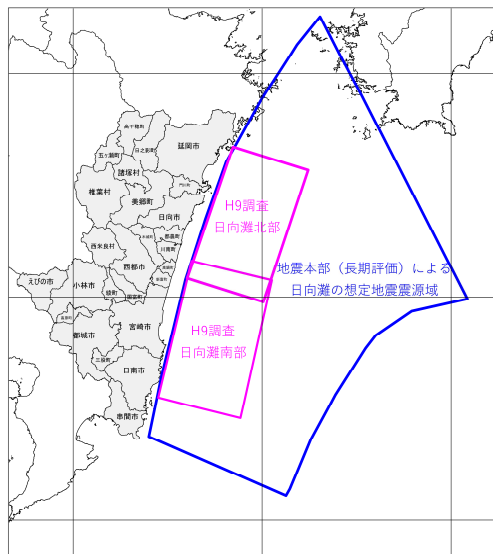


図2 日向灘地震の想定震源域

第1章 津波浸水想定

宮崎県における地震・津波に対する防災策の総合的な推進は、中・長期的な取り組みとなりますが、住民の生命を守る観点から、早期に津波避難対策を進めていく必要があります。

このため、平成25年には、最大クラスの津波（L2津波）による「津波浸水想定」について公表しました。今回、日向灘で発生する地震による津波の被害想定に用いる津波高等については、平成9年度調査で公表された震源断層モデルを基に、最新の知見で津波浸水想定を更新したものになります。

また、この作業は、「津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）」、国土交通省から出された「津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針」や「津波浸水想定の設定の手引き」に沿って行いました。

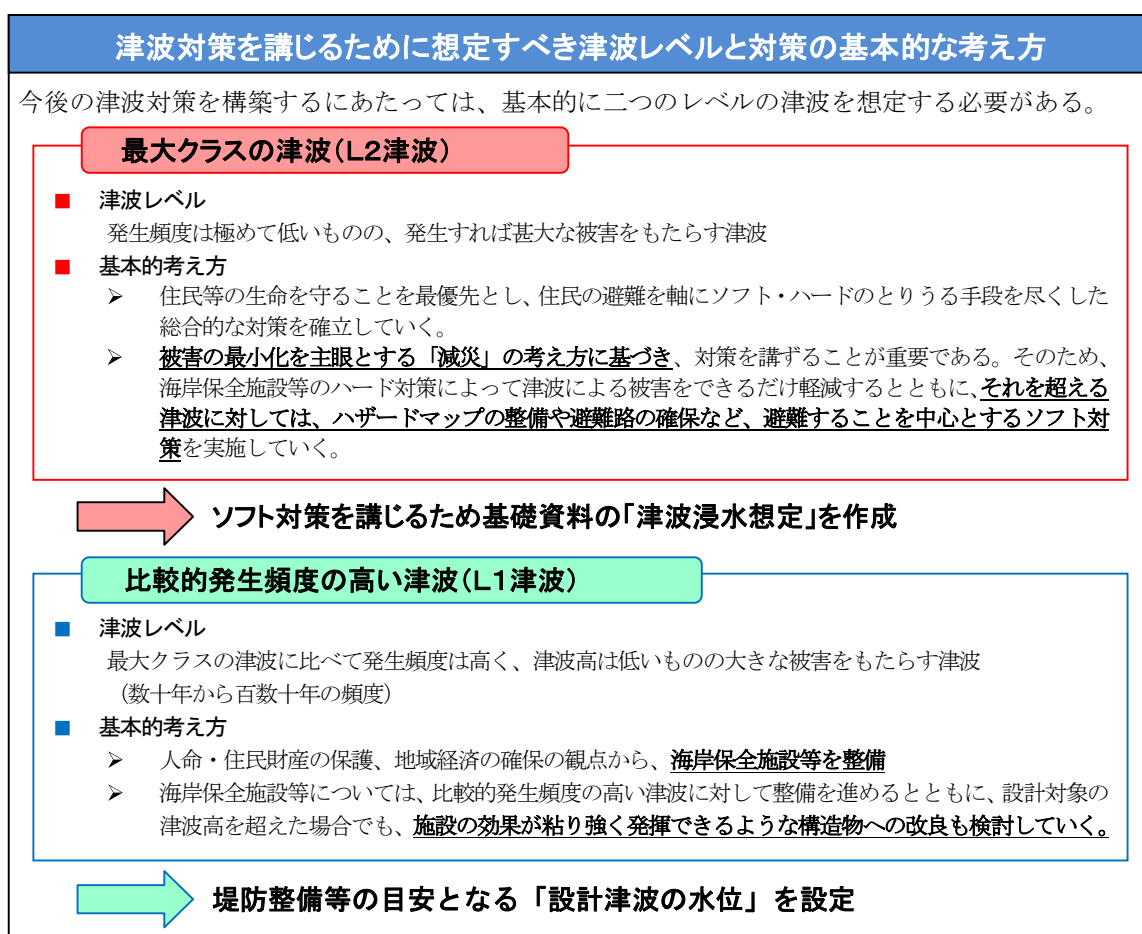


図3 津波対策を講じるために想定すべき津波レベルと対策の基本的な考え方

《津波浸水想定にあたって》

宮崎県沿岸日向灘で発生する地震によって津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、平成9年度実施の宮崎県地震・津波被害想定調査等を基に、日向灘北部及び日向灘南部震源とする断層モデルを設定しました。

日向灘を震源とする M7 クラスの地震のうち、最新の知見等をもとに、日向灘北部および日向灘南部に震源を持つ2ケースのモデルによる津波浸水を想定しました。

以上の2つのモデルによる津波の想定結果を重ね合わせて、日向灘で発生する M7 クラス地震による津波から考えうる浸水を想定しました。

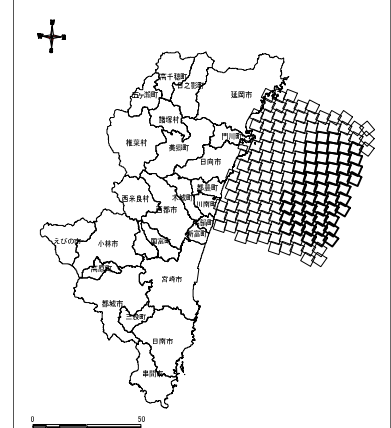
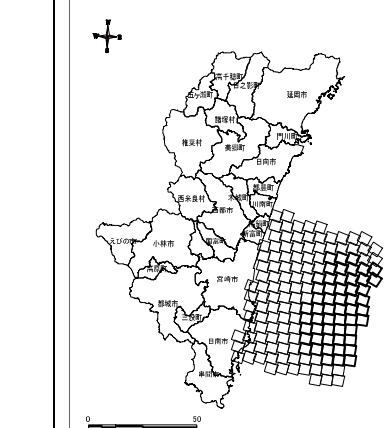
対象津波	日向灘で発生する M7 クラスの地震	
	日向灘北部地震	日向灘南部地震
マグニチュード	Mw = 7.6	Mw = 7.6
概要	日向灘北部を震源とする M7 クラスの海溝型地震	日向灘南部を震源とする M7 クラスの海溝型地震
		

図4 日向灘地震による想定波源モデル

表 1.1 各市町の津波高

市町名	津波高の最大値 (m)	津波高の平均値 (m)
延岡市	5.6	3.5
門川町	4.9	3.9
日向市	5.9	4.3
都農町	4.9	4.3
川南町	4.2	3.9
高鍋町	4.3	3.9
新富町	4.5	4.3
宮崎市	6.0	4.6
日南市	4.2	2.6
串間市	4.3	2.0
県最大値	6.0	4.6

※津波高は、津波水位に地殻変動量を考慮し、メートル以下第2位を四捨五入し第1位を切り上げた数値を表示。

※最大値は市町毎に最も高い値を表示。

※平均値は市町毎に平均を表示。

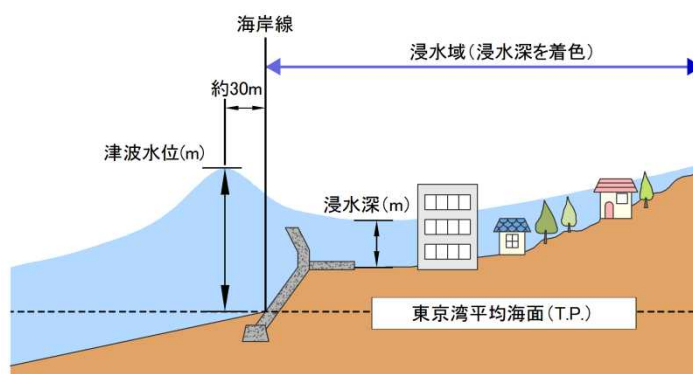


表 1.2 各市町の浸水面積

市町名	浸水面積 (ha)
延岡市	600
門川町	180
日向市	690
都農町	40
川南町	40
高鍋町	60
新富町	90
宮崎市	760
日南市	370
串間市	230
県合計値	3,070

※浸水面積は、河川等部分を除いた陸域部の浸水深1cm以上の浸水面積。四捨五入の関係で合計の面積は合わない。

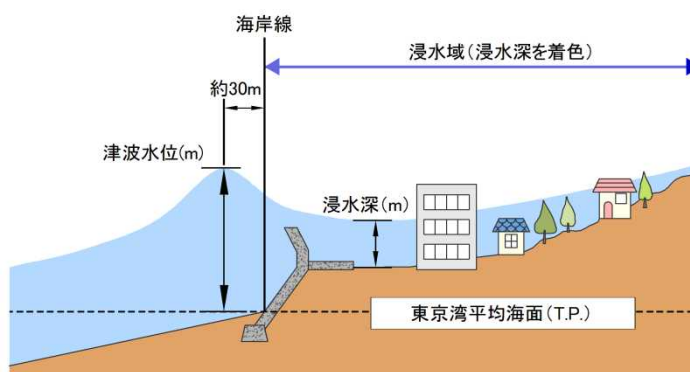
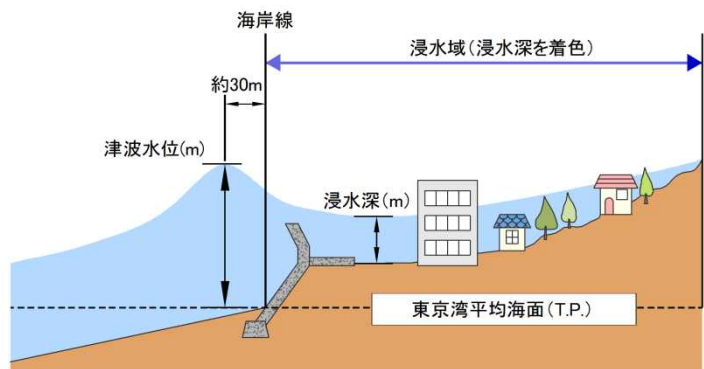


表 1.3 各市町の津波到達時間

市町名	津波到達時間の最短値（分）	
	南海トラフ	日向灘
延岡市	17	13
門川町	16	12
日向市	17	13
都農町	20	16
川南町	20	16
高鍋町	20	17
新富町	21	18
宮崎市	18	14
日南市	15	14
串間市	15	19
県最短値	14	12

※津波到達時間は、海岸線から沖合約30m地点において、地震発生直後から水位の変化+1mになるまでの時間を表示。

※津波到達時間の最短値は市町毎に最も早い値を表示。



第2章 地震動想定

日向灘で発生する M7 クラスの地震による地震動想定（震度分布等）について、令和2年12月の地震専門部会で専門的な意見を伺いました。

《地震動想定にあたって》

日向灘で発生する M7 クラスの地震の強震断層モデルとして、平成9年度実施の宮崎県地震被害想定調査や地震調査研究推進本部による強震動予測結果等を参考に日向灘北部及び南部に震源を持つ2ケース「日向灘北部地震」「日向灘南部地震」を想定しました。

以上の計2つのモデルによる地震動の想定結果を重ね合わせて、日向灘で発生する地震による地震動を想定しました。

表 2.1 日向灘で発生する地震動の予測概要

予測手法		統計的グリーン関数法+震度増幅
震源特性		日向灘北部あるいは南部に震源域を有する2ケース
サイト特性	深い地盤構造 (予測単位)	宮崎県調査(2013.3)で作成した宮崎県モデル(約1km毎)
	浅い地盤構造 (予測単位)	宮崎県調査(2013.3)で作成した宮崎県モデル(約50m毎)

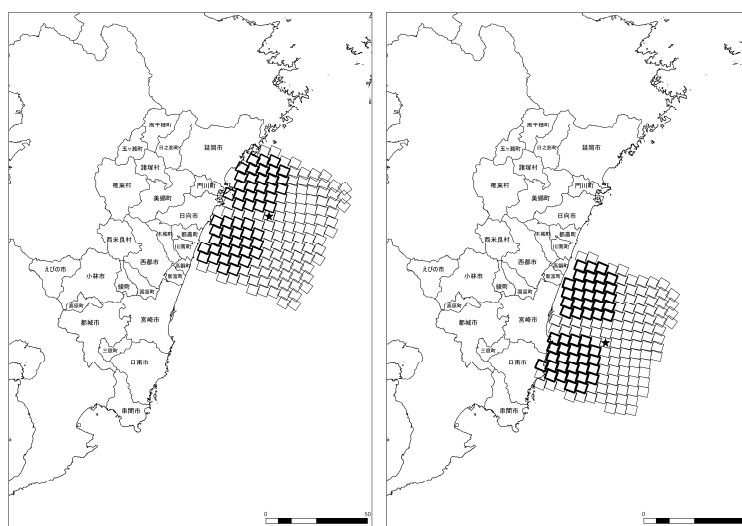
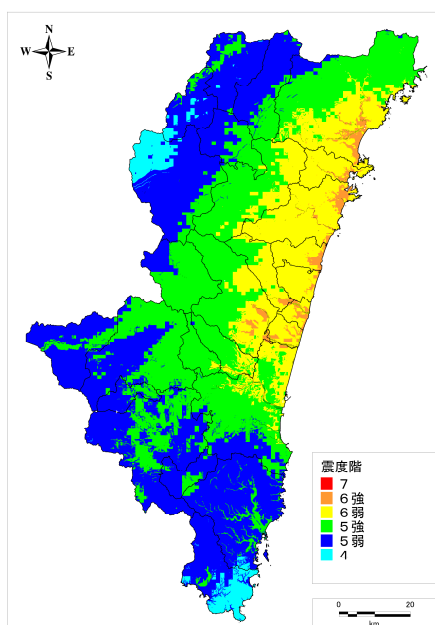
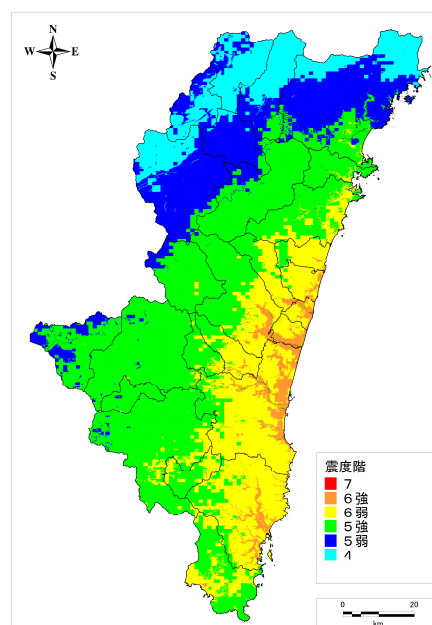


図6 強震断層モデル（左）日向灘北部地震、（右）日向灘南部地震

日向灘北部地震



日向灘南部地震



2つのケースを重ね合わせ

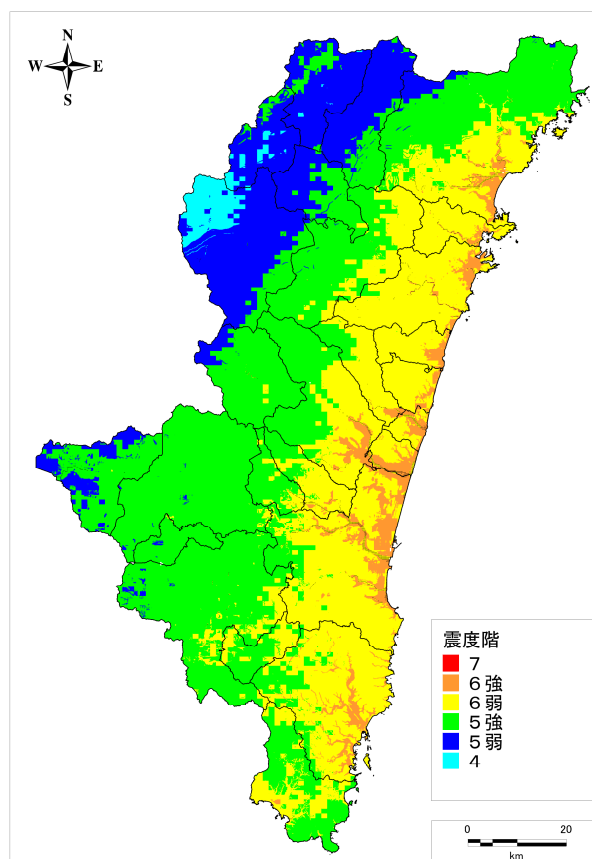


図7 地震動想定（震度分布）

表 2.2 市町村別最大震度一覧

市町村名	日向灘北部地震	日向灘南部地震	最大値
宮崎市	6 強	6 強	6 強
都城市	5 強	6 弱	6 弱
延岡市	6 強	6 弱	6 強
日南市	5 強	6 強	6 強
小林市	5 強	6 弱	6 弱
日向市	6 強	6 強	6 強
串間市	5 強	6 強	6 強
西都市	6 強	6 強	6 強
えびの市	5 強	6 弱	6 弱
三股町	5 強	5 強	5 強
高原町	5 強	6 弱	6 弱
国富町	6 弱	6 強	6 強
綾町	6 弱	6 強	6 強
高鍋町	6 強	6 強	6 強
新富町	6 強	6 強	6 強
西米良村	5 強	6 弱	6 弱
木城町	6 強	6 強	6 強
川南町	6 強	6 強	6 強
都農町	6 強	6 強	6 強
門川町	6 強	6 弱	6 強
諸塚村	6 弱	5 強	6 弱
椎葉村	5 強	5 強	5 強
美郷町	6 弱	5 強	6 弱
高千穂町	5 強	5 弱	5 強
日之影町	6 弱	5 強	6 弱
五ヶ瀬町	5 強	5 弱	5 強

○最大震度別市町村数

震度 6 強が想定される地域
(6 市 8 町)

震度 6 弱が想定される地域
(3 市 3 町 2 村)

震度 5 強が想定される地域
(3 市 1 村)

宮崎市、延岡市、日南市、日向市、串間市、西都市、
国富町、綾町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町
都城市、小林市、えびの市、
高原町、美郷町、日之影町、西米良村、諸塚村
三股町、高千穂町、五ヶ瀬町、椎葉村

第3章 被害想定

1 想定にあたって

(1) 基本的な考え方

今回の被害想定は、宮崎県調査(2013.10、2020.3)と同様に、内閣府が発表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」(2012.8)(2013.3)における考え方及び算定手法を踏襲し、基礎データとなる各種資料(固定資産、インフラ等)については、県内の詳細なデータを収集・整理し反映させた宮崎県調査(2020.3)のデータを用いて県内市町村単位での推計を行いました。

宮崎県調査(2013.10)(2020.3)では、下記の点を反映した算定を実施しています。

- 被害想定 of 各数値を市町村単位で算定。
- 想定に用いる地震動及び津波モデルに、宮崎県独自に設定したモデルを追加。
- 市町村から固定資産データを収集・整理して、構造・年代区分を正確に反映。
- 市町村の最新の津波避難ビルデータなどを反映。
- 資産等の被害の算定に宮崎県における単価を採用。
- 平成30年度実施の県民意識調査による津波避難意識を反映。

(2) 被害想定的前提とする外力(地震動・津波)について

日向灘の南北で発生する2つのケースについて、以下のとおり想定しました。

【日向灘北部地震】

日向灘北部に強震断層モデル及び津波断層モデルを用いて、解析した地震動及び津波浸水の想定結果に基づくケース。

【日向灘南部地震】

日向灘南部に強震断層モデル及び津波断層モデルを用いて、解析した地震動及び津波浸水の想定結果に基づくケース。

(3) 被害想定のシーンと条件

- シーン（季節・時刻）については、特徴的な3種類を設定（内閣府同様）。
- 風速については、比較的強い風速毎秒8mを設定（内閣府同様）。
- 津波避難ビルをはじめとする津波避難場所については、2019.12時点に市町村で指定されているものを設定。
- 津波に対する避難意識については、平成30年度に実施された県民意識調査による津波避難意識を設定。

シーン設定	想定される被害の特徴
①冬・深夜	多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。 オフィスや繁華街の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。 *屋内滞留人口は、深夜～早朝の時間帯でほぼ一定。
②夏・昼12時	オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。 木造建物内滞留人口は、1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数はシーン①と比較して少ない。 *木造建物内滞留人口は、昼10時～15時でほぼ一定。 *海水浴客をはじめとする観光客が多く沿岸部等にいる。
③冬・夕18時	住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。 鉄道、道路もほぼ帰宅ラッシュ時に近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

(出典) 南海トラフ巨大地震対策ワーキンググループ：南海トラフ巨大地震の被害想定について（第一次報告）(2012.8)

(4) 県民意識調査による津波避難意識について

平成30年度に、県内沿岸10市町の津波浸水想定区域内及び区域近隣に居住する県民を対象に、津波避難等に関する県民意識調査⁷を実施しました。アンケートの結果、「就寝中の大地震に避難をするか」という問いに対して、48.7%が「避難する」、19.7%が「避難しない」と回答しました。また、「避難する」と回答した方を対象とし、早期避難と考えられる「揺れが収まったらすぐ」、「津波注意報がでたら」、「津波警報がでたら」、「大津波警報がでたら」と回答した方は77.9%となっています。

⁷ 宮崎県(2018)：平成30年度津波避難等に関する県民意識調査結果報告書(対象者:対象自治体に居住する満18歳以上の県民6,761人、有効回収数:2,569票(有効回収率38.0%))

図 II-6 就寝中の大地震後に避難をするか

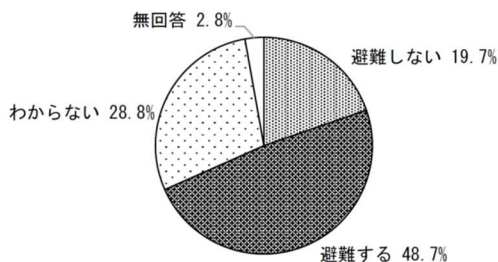


図 II-10 宮崎県

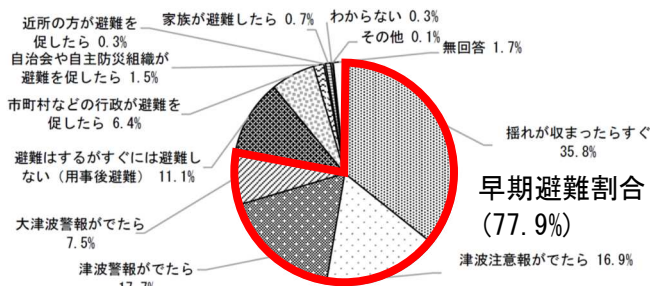


図 8 県民意識調査によるアンケート結果（宮崎県(2018)より抜粋、加筆）

今回の想定においては、このアンケート結果を用いて「わからない」「無回答」を除いたデータにより、「避難する」71.2%、「避難しない」28.8%とし、早期避難割合77.9%を用いて、津波による人的被害算定時の早期避難者比率を設定⁸しました。

調査	避難行動別の比率		
	避難する		切迫避難 あるいは 避難しない
	すぐに避難する (直接避難)	避難するがすぐに 避難しない(用事後 避難)	
内閣府調査(2012.8)	20.0%	50.0%	30.0%
宮崎県調査(2013.10)	20.0%	50.0%	30.0%
内閣府調査(2019.6)	28.4%	60.2%	11.4%
宮崎県調査(2020.3)	55.5%	15.7%	28.8%

2 被害想定の特徴

M7クラスの地震による被害の想定となりますので、最大クラスの地震と比べて揺れや浸水による影響は明らかに小さくなっています。しかしながら、依然として揺れや津波による建物被害は予測されており、建物倒壊や津波に巻き込まれる人的被害はゼロではありません。

今回想定した2ケースの特徴は以下のとおりです。

「日向灘北部地震」:

「日向灘南部地震」に比べて津波浸水域が広く、津波浸水に起因する項目で被害の想定が大きくなる傾向にあります。

「日向灘南部地震」:

「日向灘北部地震」に比べて強い揺れの範囲が広く、揺れに起因する項目で被害の想定が大きくなる傾向にあります。

<最大クラスの地震による想定(2020.3)との比較>

いずれのケースにおいても、南海トラフの地震による想定結果より地震や津波による影響は小さいですが、一部地域では、津波が到達する時間が早くなっています。津波に対する早期避難がより一層重要となります。

⁸ 「直接避難」(55.5%) = 「避難する」(71.2%) × 「早期避難割合」(77.9%)

3 各種被害の想定

(1) 建物被害

宮崎県調査(2020.3)のデータ(市町村から提供を受けた固定資産データ等から建物の構造・年代・分布を把握)を用いて、過去の地震災害から設定された建物被害率と地震・津波の大きさ等との関係から、各種建物被害を想定しました。

<今回の想定結果>

建物被害は、5つの要因別(液状化による被害、揺れによる被害、急傾斜地崩壊による被害、津波による被害、火災による被害)に想定しますが、複数の要因で重複して被害を起こす可能性があります(例えば、揺れによって全壊した後に津波で流出するなど)。本想定では、これまでの想定を踏襲し、被害要因の重複を避けるために、以下の①から⑤の順番で被害の要因を割り当てています。その結果、5つの要因別の被害量は以下の通りです。

- ①液状化 : 被害が発生しやすい想定となっていますので、多くの被害が発生しています。
- ②揺れ : 建物建て替えや耐震改修により耐震化が進んでいますが、揺れの大きい地域で被害が多いです。
- ③急傾斜地 : 急傾斜崩壊危険箇所地整備率が向上したことで、急傾斜崩壊箇所は減少していますが、急傾斜地崩壊による被害は発生しています。
- ④津波 : いくつかの地域で浸水想定範囲内に建物が存在することから被害が発生しています。
- ⑤地震火災 : 建物が多く、揺れの大きい地域で被害が大きくなっています。

それぞれの要因による建物被害数を集計した結果、日向灘北部地震では、約1.3万棟、日向灘南部地震では、約1.6万棟の被害が想定されています。

表 3.1-1 日向灘北部地震による建物被害結果

季節・時間	全壊・焼失	半壊	対象数
冬深夜	約 1.3 万棟	約 4.9 万棟	約 49.2 万棟
夏 12 時	約 1.3 万棟		
冬 18 時	約 1.3 万棟		

※建物全壊焼失率 = 全壊・焼失棟数/建物数 = 1.3/49.2 = 0.0264 2.6%

表 3.1-2 日向灘南部地震による建物被害結果

季節・時間	全壊・焼失	半壊	対象数
冬深夜	約 1.5 万棟	約 5.8 万棟	約 49.2 万棟
夏 12 時	約 1.5 万棟		
冬 18 時	約 1.6 万棟		

※建物全壊焼失率 = 全壊・焼失棟数/建物数 = 1.6/49.2 = 0.0325 3.3%

(参 考) 表 3.1-3 宮崎県調査(2007.3)

想定地震	全壊	半壊	対象数
日向灘北部	約 1.4 万棟 (津波)最大 5 千棟	約 3.0 万棟	約 74.1 万棟
日向灘南部	約 2.3 万棟 (津波)最大 5 千棟	約 4.6 万棟	

< 宮崎県調査(2007.3)との比較 >

想定手法の違いから対象建物棟数が異なるため単純に比較すべきではありませんが、日向灘北部地震に比べて日向灘南部地震の建物被害数が多い傾向は同じです。津波による被害数は、東南海・南海地震(M8 クラス)による被害を最大被害数としていますので、今回の想定は被害の少ない結果となっています。

(2) 人的被害

宮崎県調査(2020.3)のデータ(国勢調査などから時間帯ごとの人口分布を把握)を用いて、過去の地震災害から設定された人的被害率と建物被害数等との関係から、時間帯別の人的被害を想定しました。

人的被害の算定では、津波浸水の影響を大きく受ける日向灘北部地震の方が、被害が大きくなっています。

<今回の想定結果>

人的被害は、建物倒壊、急傾斜地崩壊、津波、火災、ブロック塀他による各被害を想定します。それぞれの被害については、以下の通りです。

- ①建物倒壊 : 揺れが大きい地域では建物倒壊による被害が多く想定されています。
- ②急傾斜地崩壊 : 一定の揺れにより急傾斜地が崩壊することで被害が想定されています。
- ③津波 : 宮崎県調査(2020.3)で明らかとなったように津波避難施設等による効果は大きく、加えて県民の津波避難意識は向上していますが、浸水深の大きい地域で被害が多く想定されています。
- ④火災 : 揺れが小さく火災の出火件数も少ないことから被害も少なく想定されています。
- ⑤ブロック塀他 : 揺れが小さくブロック塀倒壊数も少ないですが、わずかに被害が想定されています。

それぞれの要因の人的被害数を集計した結果、日向灘北部地震では約 1,700 人、日向灘南部地震では約 990 人の死者が想定されています。

表 3.2-1 日向灘北部地震による人的被害結果

季節・時間	死者	負傷者	対象数
冬深夜	約 1,700 人	約 5,500 人	約 110 万人
夏 12 時	約 1,300 人	約 4,000 人	
冬 18 時	約 1,300 人	約 4,400 人	

※人的被害率=死者数/人口=0.17/110=0.0015 0.15%

表 3.2-2 日向灘南部地震による人的被害結果

季節・時間	死者	負傷者	対象数
冬深夜	約 990 人	約 6,500 人	約 110 万人
夏 12 時	約 860 人	約 5,100 人	
冬 18 時	約 790 人	約 5,600 人	

※人的被害率=死者数/人口=1.4/110=0.0009 0.09%

(参 考) 表 3.2-3 宮崎県調査(2007.3)

季節・時間	死者	負傷者	対象数
日向灘北部	331 人 (津波)最大 670 人	約 2.4 万人	約 115 万人
日向灘南部	882 人 (津波)最大 670 人	約 3.3 万人	

<宮崎県調査(2007.3)との比較>

想定手法の違いから単純に比較すべきではありませんが、同程度の結果となっています。津波による被害数は、東南海・南海地震(M8 クラス)による被害を最大被害数としていましたが、今回の想定では、より大きな被害となっています。

(3) ライフライン被害

宮崎県調査(2020.3)のデータ(各種団体が発行している統計資料や事業者から直接提供を受けた資料より、ライフライン敷設状況などの現況を把握)を用いて、過去の地震災害から設定されたライフライン被害と揺れ・津波の大きさ等との関係から、被害を想定しました。さらに、過去の事例より復旧状況を適用することで、地震発生後の時間推移ごとの被害の復旧状況を想定しました。

<今回の想定結果>

- ①上水道：地震発生直後には人口のおよそ8割が断水による影響を受けると想定され、1週間後にもおよそ3割が影響を受けると想定されています。
- ②下水道：地震発生直後には下水道利用者のおよそ8割が影響を受けると想定されています。
- ③電力：地震発生直後にはおよそ8割が停電すると想定されています。
- ④通信：地震発生直後にはおよそ7割が普通回線となると想定されています。
- ⑤都市ガス：地震発生直後にはおよそ7割が影響を受けると想定されています。

表 3.3-1 日向灘北部地震によるライフライン被害結果

項目	直後	1週間後	1ヶ月後	対象数
上水道(断水人口)	約71万人	約23万人	約3.6万人	約107万人
下水道(支障人口)	約45万人	約1.8万人	約0.1万人	約71万人
電力(停電件数)	約38万軒	約1.2万軒		約64万軒
通信(固定電話不通回線数)	約20万回線	約0.6万回線	—	約34万回線
都市ガス(供給停止戸数)	約5.7万戸	約3.7万戸	—	約8.1万戸

注) —：わずか

表 3.3-2 日向灘南部地震によるライフライン被害結果

項目	直後	1週間後	1ヶ月後	対象数
上水道(断水人口)	約89万人	約35万人	約6万人	約107万人
下水道(支障人口)	約56万人	約2.3万人	約0.1万人	約71万人
電力(停電件数)	約48万軒	約1.3万軒		約64万軒
通信(固定電話不通回線数)	約25万回線	約0.7万回線	—	約34万回線
都市ガス(供給停止戸数)	約5.3万戸	約3.5万戸	—	約8.1万戸

注) —：わずか

(4) 交通施設被害

宮崎県調査(2020.3)のデータ((財)日本デジタル道路地図協会 DRM (Digital Road Map) データや庁内関係機関より直接提供を受けた資料)を用いて、交通施設の現況を把握し、過去の地震災害から設定された交通施設被害と地震・津波の大きさ等との関係から、各項目の被害を想定しました。

<今回の想定結果>

いずれの項目においても、揺れが大きい地域では揺れによる被害が想定されています。浸水域の広く浸水深が大きい範囲でわずかに津波による被害が想定されています。

表 3.4-1 日向灘北部地震による交通施設被害結果

項目		被害	対象数
道路施設		約 770 箇所	約 15,000km
鉄道施設		約 380 箇所	約 320km
港湾施設	岸壁	約 12 箇所	62 箇所
	その他係留施設	約 30 箇所	226 箇所
漁港施設	岸壁	約 13 箇所	71 箇所
	その他係留施設	約 35 箇所	214 箇所

表 3.4-2 日向灘南部地震による交通施設被害結果

項目		被害	対象数
道路施設		約 880 箇所	約 15,000km
鉄道施設		約 530 箇所	約 320km
港湾施設	岸壁	約 12 箇所	62 箇所
	その他係留施設	約 43 箇所	226 箇所
漁港施設	岸壁	約 2 箇所	71 箇所
	その他係留施設	約 7 箇所	214 箇所

(5) その他の被害

(1)建物被害や(3)上水道被害の復旧状況に、過去の地震災害から設定された一定の率を掛け合わせることで、発生する避難者や災害廃棄物量を想定しました。孤立集落については、想定した地震や津波浸水と重ね合わせることで、可能性のある集落数を抽出しました。

<今回の想定結果>

- ①避難者 : 揺れが大きい地域で避難者が多く想定されています。
- ②避難所の要配慮者 : 揺れが大きい地域で避難者が多く想定されています。
- ③災害廃棄物等 : 揺れが大きい地域や津波浸水域で災害廃棄物が想定されています。
- ④孤立集落 : 揺れが大きい地域や津波浸水域で孤立集落の発生が想定されています。

表 3.5 日向灘北部地震によるその他の被害結果

項目	1日後	1週間後	1ヵ月後	対象数
避難者	約 6.2 万人	約 10.6 万人	約 8.3 万人	約 110 万人
避難所の要配慮者	約 1.4 万人	約 2.4 万人	約 1.8 万人	約 28 万人
項目	災害廃棄物		津波堆積物	合計
災害廃棄物等	約 260 万トン		約 60 万トン	約 320 万トン
項目	可能性のある集落	対象数		
孤立集落	11 箇所	577 箇所		

表 3.5-2 日向灘南部地震によるその他の被害結果

項目	1日後	1週間後	1ヵ月後	対象数
避難者	約 7.6 万人	約 15 万人	約 12 万人	約 110 万人
避難所の要配慮者	約 1.7 万人	約 3.3 万人	約 2.6 万人	約 28 万人
項目	災害廃棄物		津波堆積物	合計
災害廃棄物等	約 310 万トン		約 60 万トン	約 380 万トン
項目	可能性のある集落	対象数		
孤立集落	16 箇所	577 箇所		

(6) 経済被害

(1)建物被害～(5)その他の被害で求めた各種被害に原単位（単価）を掛け合わせることで、資産等の被害額を想定しました。

(2)で求めた人的被害などから、労働力の減少分を加味して、生産・サービス低下による影響を想定しました。

道路交通センサス⁹より県内の交通量を把握し、(4)で求めた各種交通施設被害等より、交通寸断（道路復旧に1カ月要するとした場合）による物流への影響を想定しました。

表 3.6-1 日向灘北部地震による経済被害結果

項目	被害
資産などの被害額	約 1.3 兆円
生産・サービス低下による影響	約 0.5 兆円
交通寸断による影響	約 0.2 兆円

表 3.6-2 日向灘南部地震による経済被害結果

項目	被害
資産などの被害額	約 1.6 兆円
生産・サービス低下による影響	約 0.5 兆円
交通寸断による影響	約 0.1 兆円

(参考1) 平成30年度 宮崎県 県内総生産（実質） 約 3.6 兆円

(参考2) 令和2年度 宮崎県 一般会計予算 約 0.6 兆円

⁹ 国土交通省九州地方整備局：道路交通センサス自動車 OD 表、H27

第4章 減災効果

この章では、今後、各種地震・津波対策を進めることによって、どの程度被害が軽減できるかについて試算しました。

日向灘地震への対応については、震度6弱から震度6強の強い揺れが広範囲で発生すると想定されましたが、これまで同様に従来から進めてきた耐震対策をより一層着実に進めることが重要です。

一方、日向灘で発生する津波への対応については、宮崎県調査(2020.3)で把握しましたように、津波避難ビルなどの避難施設が位置、収容人数ともに十分に確保できるようになり¹⁰、平成30年に実施された県民意識調査では、津波避難意識がこれまでの想定よりも高いことが確認できました。この避難意識により、津波の被害数は大きく変化します。住民一人ひとりが主体的かつ迅速に避難行動がとれるよう対策を講じていくことが必要です。

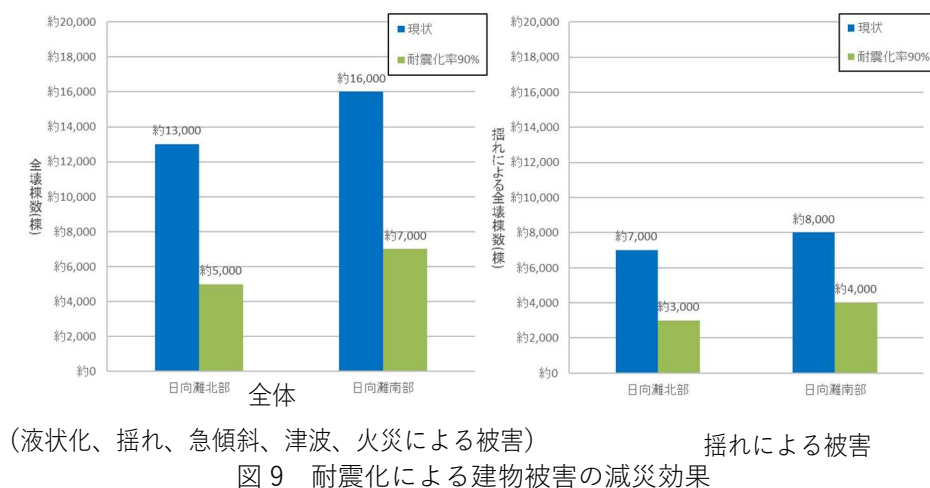
特に避難訓練などのソフト対策は、継続的に実施すれば必ず効果を発揮するものであり、確実に積み重ねていくことが重要です。

1 建物被害の減災効果

県の建築物の耐震化率は、平成26年度末時点で77.0～99.8%¹¹です。このうち、住宅の耐震化率¹²を90%にすることで、揺れによる建物被害が大きく軽減され、「日向灘北部」では、約1.3万棟→約0.5万棟に、「日向灘南部」では、約1.6万棟→約0.7万棟に軽減することが見込めます。

このうち、揺れによる被害の減災効果は、「日向灘北部地震」では、約0.7万棟→約0.3万棟に、「日向灘南部地震」では、約0.8万棟→約0.4万棟に軽減することが見込めます。

今回の想定結果でも、揺れによる被害を免れた建物が津波・火災による被害を受けることが示されました。さらなる被害の軽減には、耐震化率の向上に加えて、津波浸水リスクを考慮した土地利用や、感震ブレーカーの設置などによる出火防止なども重要です。



¹⁰ 今回、津波避難施設等による効果の少ない自治体は、宮崎県調査(2013.10)で既に整備済みであったといえます。

¹¹ 宮崎県(2017)：宮崎県耐震改修促進計画(2017)（平成26年度末の県の建築物の耐震化率：住宅77.0%、特定建築物93.5%、公共建築物96.8%（うち、県有施設99.8%）、民間建築物90.7%）

¹² 宮崎県耐震改修促進計画(2017)により、平成25年時点の住宅の耐震化率は、平成25年住宅・土地統計調査から75.9%となっています。平成30年住宅・土地統計調査を用いた推計では、平成30年の住宅の耐震化率は平成25年度から約4%向上しています。

2 人的被害の減災効果

宮崎県調査(2020.3)では、宮崎県内において指定された津波避難施設の効果を把握し、県民の避難意識の把握により、人的被害が大きく減少していることが示されました。

(1) 建物の耐震化

宮崎県調査(2020.3)で示されたように耐震化率の向上により、建物の倒壊による死傷者は減少していますが、さらなる耐震化は、被害の軽減だけでなく、出火件数、自力脱出困難者の減少に伴う、延焼火災、津波浸水による被害も軽減することができます。さらに、これ以外にも、津波避難路となる道路の閉塞可能性の低減や円滑な避難にも効果があると考えられます。

(2) 津波に対する早期避難の実施

津波避難意識の把握の結果、宮崎県調査(2013.10)の避難意識の割合(ア)よりも意識率は高くなっていますが、目標である(ウ)には達していません。意識の低下は被害者数の増加につながることから、より一層のソフト対策が重要と考えられます。

以上の対策から「日向灘北部地震」では、死者が約 1,700 人→約 310 人に、「日向灘南部地震」では、約 990 人→約 360 人に軽減することが見込めます。

表 4.1 人的被害の減災効果

		避難行動別の比率		
		避難する		切迫避難あるいは避難しない
		すぐに避難する (直接避難)	避難するがすぐには避難しない(用事後避難)	
(ア)	宮崎県調査(2013.10)の避難意識の割合	20%	50%	30%
(イ)	県民意識調査による避難意識を反映した場合	55.5%	15.7%	28.8%
(ウ)	早期避難者比率が高い場合(避難呼びかけ)	70%	30%	0%



図 10 人的被害の減災効果

(3) その他

耐震化や早期避難を高めること以外にも、これまで実施してきた「ハード対策」や「家具等の転倒防止対策」、「消防力強化」や内閣府(2019.6)で示された「感震ブレーカー設置による出火防止」などの対策を併せて進めることによって、更なる被害軽減を見込めます。

3 経済被害の減災効果

耐震化や早期避難を実現させることによって、物的・人的被害を軽減することが、さらなる経済的な被害の減少にもつながります。

経済被害については、「日向灘北部地震」では、資産等の被害額が約 1.3 兆円から約 3 千億円減、生産・サービス低下の被害額が約 0.5 兆円から約 4 百億円減と見込めます。

また、「日向灘南部地震」では、資産等の被害額が約 1.6 兆円から約 3 千億円減、生産・サービス低下の被害額が約 0.5 兆円から約 5 百億円減と見込めます。今回の想定では、道路が 1 カ月間停止した場合の被害額を算定したため、交通寸断による物流停滞等の被害額については、ほとんど変化はありませんでした。

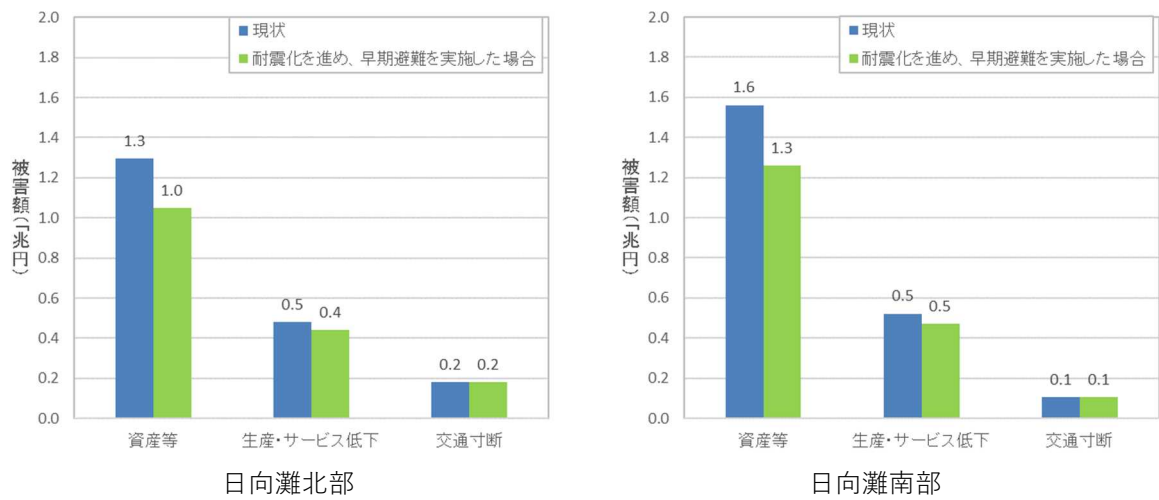


図 11 経済被害減災効果

4 今後の課題

本県では、平成 25 年に南海トラフ巨大地震の被害想定を公表して以降、「新・宮崎県地震減災計画」に基づき、各自治体と連携しながら津波避難タワーなどの津波避難施設の整備やライフライン・インフラ整備などのハード対策のほか、津波避難ビル等の指定や避難訓練の実施、さらには防災出前講座や耐震化を促進するための啓発活動などのソフト対策に取り組んできているところです。

今回、これらの取り組みを反映しつつ、東日本大震災以降の地震・津波に関する最新の知見を用いて、日向灘で発生するプレート間地震を対象に、建物被害、人的被害、経済被害などを想定しました。想定した結果、いくつかの課題が明らかになりました。

主な課題として、南海トラフ巨大地震と比べて津波の到達時間が早くなったことが挙げられます。詳しい調査の結果、浸水区域が小さくなるため、南海トラフ巨大地震対策と同様の早期避難行動を取れば避難可能であることが判明しましたが、早期避難行動が取れるよう、県民意識の更なる向上を図る必要があります。また、減災対策後の想定においても、揺れによる建物被害や人的被害は残されていますので、住宅の耐震化のさらなる向上もまた重要となります。

これまでの被災自治体へのアンケート調査などによると、災害に対する意識は時間の経過とともに風化していくと言われていています。今回の調査においても、仮に指定された場所などへ住民が全く避難しない場合の被害を算定しましたが、津波により約 4000 人の犠牲者が発生することが確認されました。これからも、啓発活動は継続して取り組んでいくことが重要であると考えます。さらに、今後は、避難行動要支援者へのきめ細かな対策も重要であると考えます。

加えて、インフラ整備等については、県民の早期避難、救助活動等の災害応急対策、復旧・復興対策において極めて重要であることから、引き続き強力で推進していく必要があります。

今回の想定では、日向灘北部及び南部に震源を持つ 2 ケースの想定を行いましたが、過去の調査研究では、震源域内のどこで発生するか特定できないとされています。地震の発生場所によっては、今回の想定より大きな揺れや高い津波が発生することも考えられますので、南海トラフ巨大地震と同様の対策が必要です。

以上のような課題や今回の調査結果を踏まえ、県では「新・宮崎県地震減災計画」を見直すとともに、この計画に基づき、引き続き「建物の耐震化率 90%」および「住民の早期避難率 70%」の達成に向けて防災・減災に取り組み、「誰一人取り残さない」「逃げ遅れゼロ」の実現を目指してまいります。

令和元年度及び2年度宮崎県防災会議地震専門部会 専門委員

	職 名 〔専門分野〕	氏 名
専 門 委 員	香川大学 特任教授 学長特別補佐 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長、 地域強靱化研究センター長 〔減災科学・海底地震学〕	金田 義行
	宮崎大学 工学部 名誉教授 〔地震工学・地震防災工学〕	原田 隆典
	宮崎大学 教育学部 家政教育 特別教授 〔住生活学・家政学（住環境）〕	米村 敦子
	宮崎大学 工学部 国際教育センター 教授 〔水工土木学・海岸工学〕	村上 啓介
	千葉大学 大学院 工学研究院 融合理工学府 地球環境科学専攻都市環境システムコース 教授 〔都市防災・地震工学〕	丸山 喜久
	宮崎大学 工学部 社会環境システム工学科 准教授 〔地盤工学〕	福林 良典
	京都大学 防災研究所附属地震予知研究センター 助教 海溝型地震領域 〔観測地震学・海底地震学〕	山下 裕亮
	宮崎県県土整備部長（令和元年度）	瀬戸長 秀美
	宮崎県県土整備部長（令和2年度）	明利 浩久
委 員	宮崎地方気象台長	吉松 和義
	宮崎県総務部危機管理統括監	藪田 亨

※被害想定の内訳

各種項目について、市町村毎に定量的な想定を行いました。但し、定量的な想定が困難な項目については、被害の様相として示しています。

① 建物被害 ……………	30	要配慮者……………	88
全半壊棟数……………	30	震災関連死……………	92
② 人的被害 ……………	34	宅地造成地……………	93
死傷者数……………	34	危険物施設……………	94
要救助者……………	41	大規模集客施設等……………	95
③ ライフライン被害 ……………	43	宮崎駅等……………	97
上水道……………	43	文化財……………	98
下水道……………	45	孤立集落……………	100
電力……………	47	災害応急対策等……………	102
電力（ブラックアウトの発生）……………	49	堰堤、ため池等の決壊……………	103
通信（固定電話・携帯電話）……………	50	地盤沈下による長期湛水……………	104
ガス（都市ガス）……………	54	複合災害……………	105
④ 交通施設被害 ……………	56	時間差での地震の発生……………	107
道路……………	56	漁船・船舶、水産関連施設……………	109
鉄道……………	58	治安……………	110
港湾……………	60	⑧ 経済被害 ……………	111
漁港……………	64	資産等の被害……………	111
空港……………	68	生産・サービス低下による影響……………	112
⑤ 生活への影響 ……………	69	交通寸断による影響……………	113
避難者……………	69	⑨ 減災効果 ……………	114
帰宅困難者……………	71	全半壊棟数……………	114
物資……………	73	死傷者数……………	116
医療機能……………	75	仮に全く避難しない場合の死傷者数……………	120
保健衛生、防疫、遺体処理等……………	77	資産額等の被害……………	122
⑥ 災害廃棄物等 ……………	78	生産・サービス低下による影響……………	123
災害廃棄物等……………	78	交通寸断による影響……………	124
⑦ その他の被害 ……………	80		
エレベータ内閉じ込め……………	80		
長周期地震動……………	82		
道路閉塞……………	84		
道路上の自動車への落石・崩土……………	85		
交通人的被害（道路）……………	86		
交通人的被害（鉄道）……………	87		

灰色：定量的な想定を実施した項目

①建物被害

全半壊棟数（総括表）

シナリオ	季節・時間	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
		全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
日向灘北部	冬深夜	約4,900	約24,000	約6,700	約21,000	約440	約900	約340	約2,400	約90	約13,000	約49,000
	夏12時									約120	約13,000	
	冬18時									約570	約13,000	
日向灘南部	冬深夜	約5,200	約26,000	約8,300	約30,000	約470	約970	約190	約1,400	約280	約15,000	約58,000
	夏12時									約400	約15,000	
	冬18時									約1,400	約16,000	

①建物被害

全半壊棟数（日向灘北部地震 冬18時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,700	約9,200	約180	約2,500	約70	約160	-	約50	約20	約1,900	約12,000
都城市	約60	約300	-	約20	約30	約70	-	-	-	約80	約390
延岡市	約1,400	約5,600	約2,600	約7,200	約130	約240	約140	約750	約370	約4,600	約14,000
日南市	約520	約2,100	-	約50	約60	約130	約10	約200	-	約580	約2,500
小林市	約40	約230	-	約10	約10	約20	-	-	-	約40	約260
日向市	約420	約2,400	約1,800	約3,900	約30	約50	約120	約1,000	約100	約2,500	約7,400
串間市	約10	約60	-	-	約10	約30	-	約10	-	約30	約100
西都市	約190	約950	約370	約1,500	約10	約20	-	-	-	約560	約2,500
えびの市	約100	約650	-	約10	-	約10	-	-	-	約100	約670
三股町	-	-	-	-	約10	約10	-	-	-	約10	約20
高原町	-	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
国富町	約10	約50	約10	約230	約10	約30	-	-	-	約30	約310
綾町	-	約10	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約70
高鍋町	約100	約520	約360	約1,300	-	約10	-	-	約20	約480	約1,800
新富町	約20	約150	約160	約790	約10	約10	-	-	-	約190	約950
西米良村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約20	約110	約120	約370	-	約10	-	-	-	約150	約490
川南町	-	約20	約250	約1,300	-	約10	-	-	-	約260	約1,300
都農町	約10	約40	約330	約850	-	約10	-	約30	約20	約370	約930
門川町	約350	約1,600	約530	約1,200	約20	約30	約60	約330	約30	約990	約3,200
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	約110	約20	約30	-	-	-	約20	約150
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約4,900	約24,000	約6,700	約21,000	約440	約900	約340	約2,400	約570	約13,000	約49,000

－：わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

①建物被害

全半壊棟数（日向灘南部地震 冬18時）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,800	約4,500	約15,000	約70	約140	約140	約600	約1,200	約7,700	約25,000
都城市	約240	約1,300	約10	約930	約30	約70	-	-	-	約280	約2,300
延岡市	約1,200	約4,700	約10	約410	約140	約300	約10	約150	-	約1,300	約5,600
日南市	約660	約2,700	約1,800	約4,200	約70	約120	約30	約290	約150	約2,700	約7,300
小林市	約90	約550	-	約70	約10	約20	-	-	-	約100	約630
日向市	約410	約2,400	約110	約1,100	約30	約60	約10	約250	-	約550	約3,800
串間市	約50	約190	約100	約840	約20	約50	-	約10	-	約180	約1,100
西都市	約190	約950	約430	約1,600	約10	約20	-	-	約10	約630	約2,600
えびの市	約120	約800	-	約40	-	-	-	-	-	約120	約840
三股町	約30	約240	-	約170	約10	約10	-	-	-	約40	約420
高原町	約10	約30	-	約20	-	約10	-	-	-	約10	約60
国富町	約10	約50	約80	約610	約10	約20	-	-	-	約100	約690
綾町	-	約20	約40	約260	-	約10	-	-	-	約50	約290
高鍋町	約100	約520	約380	約1,400	-	約10	-	-	約20	約500	約1,900
新富町	約20	約150	約340	約1,000	約10	約10	-	-	約10	約370	約1,200
西米良村	-	-	-	約10	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約20	約110	約110	約370	-	約10	-	-	-	約140	約490
川南町	-	約20	約300	約1,400	-	約10	-	約10	-	約320	約1,400
都農町	約10	約40	約70	約470	-	約10	-	約20	約10	約90	約530
門川町	約340	約1,600	約10	約160	約20	約40	-	約30	-	約370	約1,800
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	約20	約10	約30	-	-	-	約20	約60
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約5,200	約26,000	約8,300	約30,000	約470	約970	約190	約1,400	約1,400	約16,000	約58,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
①建物被害	津波火災

■被害様相

地震発生直後	
津波火災による被害	<ul style="list-style-type: none"> ・津波により漂流するガスボンベ等からの出火、浸水による車両等からの出火によって火災が発生する。 ・港湾・漁港で停泊している船舶が押し流され津波により火災が発生する。 ・津波により堆積した車の電気系統やガスボンベなどから発火して炎上する。 ・流出した屋外タンクからのオイル、ガスボンベやがれきなどの可燃物が燃えたまま津波に乗って漂流し、延焼が拡大する。これらの集積の密度によっては海上油面火災が形成され、燃えた船舶が延焼拡大をさらに助長する。 ・津波によって打ち寄せられた家屋などがれきが高台に堆積し、火のついたがれきから周辺のがれきへ燃え広がる。 ・山際の避難場所まで延焼するものや山林火災に発展するものもあり、一部の避難場所では再避難が必要となる。 ・がれきなどが障害となって消火できず、延焼が拡大する。 ・宮崎県においては、LP ガスが需要家の多くを占める。LP ガスについては震災後の復旧は比較的早いという実績はあるが、逆に沿岸部においては、津波によりガスボンベが流出し、津波火災につながりリスクが拡大する。 ・北部のリアス式の海岸地域などでは、限られた平地に多くの津波がれき押し寄せるため、一面に延焼が拡大する恐れがある。 ・津波によってポンプ車や消防施設が被害を受け、消防活動のために出動ができない。 ・出動しても道路の寸断で到達できる可能性は低く、また仮に到達したとしても津波火災に関しては、なすすべがなく自然鎮火を待つことになる。

②人的被害

死傷者数（総括表）

シナリオ	季節・時間	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
		死者 (人)	(家具) (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
日向灘北部	冬深夜	約490	約30	約4,500	約480	約40	約50	約1,200	約880	約0	約10	約0	約0	約1,700	約5,500
	夏12時	約270	約10	約2,900	約310	約20	約20	約1,000	約960	約0	約10	約0	約110	約1,300	約4,000
	冬18時	約380	約20	約3,300	約330	約30	約40	約820	約730	約0	約30	約10	約270	約1,300	約4,400
日向灘南部	冬深夜	約640	約40	約6,100	約660	約40	約60	約310	約390	約0	約20	約0	約0	約990	約6,500
	夏12時	約410	約20	約4,400	約460	約20	約20	約420	約510	約0	約30	約10	約200	約860	約5,100
	冬18時	約530	約30	約4,600	約470	約30	約40	約200	約350	約10	約90	約10	約500	約790	約5,600

②人的被害

死傷者数（日向灘北部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	約450 (人)	約80 (家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約450	約80	約10	約10	-	約20	-	-	-	-	約30	約480
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
延岡市	約190	約10	約1,600	約160	約10	約20	約400	約260	-	-	-	-	約610	約1,900
日南市	-	-	約10	約10	約10	約10	約10	約60	-	-	-	-	約10	約80
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	約130	約10	約930	約100	-	-	約510	約360	-	-	-	-	約640	約1,300
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
綾町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高鍋町	約20	-	約260	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約260
新富町	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約240	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約20	約240
都農町	約20	-	約170	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約40	-	約290	約30	-	-	約230	約160	-	-	-	-	約270	約450
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約490	約30	約4,500	約480	約40	約50	約1,200	約880	-	約10	-	-	約1,700	約5,500

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（日向灘北部地震 夏12時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	約430 (家具) 負傷者 (人)	約60 (家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約430	約60	-	-	約20	約100	-	-	-	約60	約40	約590
都城市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
延岡市	約110	-	約960	約100	約10	約10	約320	約220	-	-	-	約20	約440	約1,200
日南市	-	-	約10	約10	-	-	約10	約70	-	-	-	-	約20	約80
小林市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日向市	約80	-	約620	約60	-	-	約460	約470	-	-	-	約10	約530	約1,100
串間市	-	-	-	-	-	-	約30	約10	-	-	-	-	約30	約10
西都市	約10	-	約150	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約150
えびの市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
綾町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高鍋町	約10	-	約160	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約170
新富町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約40
川南町	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
都農町	約10	-	約100	約10	-	-	約10	約10	-	-	-	-	約20	約110
門川町	約20	-	約190	約20	-	-	約180	約80	-	-	-	-	約200	約270
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約270	約10	約2,900	約310	約20	約20	約1,000	約960	-	約10	-	約110	約1,300	約4,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（日向灘北部地震 冬 18 時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約390	約60	-	約10	-	約20	-	-	-	約150	約30	約560
都城市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	約10	-	約10
延岡市	約150	約10	約1,200	約110	約10	約10	約310	約220	-	約20	-	約50	約480	約1,500
日南市	-	-	約100	約10	-	-	-	約50	-	-	-	-	約10	約70
小林市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日向市	約110	-	約690	約70	-	-	約320	約350	-	約10	-	約40	約430	約1,100
串間市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
西都市	約20	-	約190	約10	-	-	/	/	-	-	-	約10	約20	約200
えびの市	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
綾町	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
高鍋町	約20	-	約190	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約190
新富町	約10	-	約90	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約100
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約50	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約50
川南町	約10	-	約160	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約170
都農町	約20	-	約120	約10	-	-	約10	約10	-	-	-	-	約30	約130
門川町	約30	-	約210	約20	-	-	約170	約80	-	-	-	約10	約210	約300
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約380	約20	約3,300	約330	約30	約40	約820	約730	約10	約30	約10	約270	約1,300	約4,400

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（日向灘南部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 死者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約370	約30	約3,300	約390	約10	約10	約190	約150	-	約20	-	-	約570	約3,400
都城市	-	-	約130	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約140
延岡市	-	-	約70	約20	約10	約20	約10	約50	-	-	-	-	約20	約140
日南市	約130	約10	約920	約90	約10	約10	約60	約130	-	-	-	-	約200	約1,100
小林市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約200	約20	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約20	約230
串間市	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
西都市	約30	-	約300	約30	-	-	/	/	-	-	-	-	約30	約300
えびの市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	約10	-	約90	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約90
綾町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約40
高鍋町	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
新富町	約20	-	約190	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約190
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約250	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約260
都農町	-	-	約80	約10	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約10	約90
門川町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約640	約40	約6,100	約660	約40	約60	約310	約390	-	約20	-	-	約990	約6,500

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（日向灘南部地震 夏12時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 死者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約280	約10	約2,700	約280	-	-	約250	約210	-	約20	-	約180	約540	約3,100
都城市	-	-	約90	約20	-	-	/	/	-	-	-	約10	-	約110
延岡市	-	-	約50	約10	約10	約10	約30	約80	-	-	-	-	約40	約150
日南市	約60	-	約520	約50	-	-	約60	約130	-	-	-	約10	約120	約660
小林市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約120	約20	-	-	約20	約40	-	-	-	約10	約30	約170
串間市	-	-	約60	-	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約20	約70
西都市	約20	-	約160	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	約20	約170
えびの市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約50	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約50
綾町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
高鍋町	約10	-	約170	約10	-	-	約30	約10	-	-	-	-	約40	約180
新富町	約10	-	約120	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約40
川南町	約10	-	約140	約10	-	-	約10	約10	-	-	-	-	約20	約150
都農町	-	-	約40	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10	約50
門川町	-	-	約20	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	約30
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約410	約20	約4,400	約460	約20	約20	約420	約510	-	約30	約10	約200	約860	約5,100

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

死傷者数（日向灘南部地震 冬 18 時 現状の津波避難ビル有）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 死者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約330	約20	約2,600	約280	-	約10	約120	約140	約10	約80	約10	約380	約470	約3,300
都城市	-	-	約100	約10	-	-	/	/	-	-	-	約30	-	約140
延岡市	-	-	約60	約10	約10	約10	約10	約40	-	-	-	約10	約20	約120
日南市	約90	-	約640	約60	-	約10	約40	約110	-	約10	-	約20	約140	約790
小林市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約140	約20	-	-	約10	約20	-	-	-	約20	約20	約190
串間市	約10	-	約80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約90
西都市	約20	-	約210	約20	-	-	/	/	-	-	-	約10	約20	約220
えびの市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約60	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約60
綾町	-	-	約30	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約30
高鍋町	約20	-	約200	約10	-	-	-	-	-	-	約10	-	約20	約200
新富町	約20	-	約140	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約140
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約50	-	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約50
川南町	約10	-	約170	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約30	約180
都農町	-	-	約50	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10	約60
門川町	-	-	約20	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	約30
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約530	約30	約4,600	約470	約30	約40	約200	約350	約10	約90	約10	約500	約790	約5,600

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（日向灘北部地震）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数			津波による要救助者数			合計		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	50	40	40	0	0	0	50	40	40
都城市	0	0	0				0	0	0
延岡市	680	370	510	20	20	20	700	390	530
日南市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小林市	0	0	0				0	0	0
日向市	420	240	320	30	30	30	450	270	350
串間市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西都市	90	40	60				90	40	60
えびの市	0	0	0				0	0	0
三股町	0	0	0				0	0	0
高原町	0	0	0				0	0	0
国富町	0	0	0				0	0	0
綾町	0	0	0				0	0	0
高鍋町	80	50	60	0	0	0	80	50	60
新富町	50	20	30	0	0	0	50	20	30
西米良村	0	0	0				0	0	0
木城町	30	10	20				30	10	20
川南町	40	20	30	0	0	0	40	20	30
都農町	60	20	40	0	0	0	60	20	40
門川町	120	60	90	10	10	10	130	60	90
諸塚村	0	0	0				0	0	0
椎葉村	0	0	0				0	0	0
美郷町	0	0	0				0	0	0
高千穂町	0	0	0				0	0	0
日之影町	0	0	0				0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0				0	0	0
合計	1,600	880	1,200	60	60	60	1,700	940	1,200

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

②人的被害

要救助者数（自力脱出困難者数）（日向灘南部地震）

市町村	揺れによる建物倒壊に伴う要救助者数			津波による要救助者数			合計		
	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時	冬深夜	夏12時	冬18時
宮崎市	1,400	980	1,100	40	40	30	1,400	1,000	1,200
都城市	0	0	0				0	0	0
延岡市	0	0	0	0	0	0	10	10	10
日南市	360	190	260	20	10	20	390	200	280
小林市	0	0	0				0	0	0
日向市	30	20	20	0	0	0	30	20	20
串間市	10	10	10	0	0	0	10	10	10
西都市	110	50	70				110	50	70
えびの市	0	0	0				0	0	0
三股町	0	0	0				0	0	0
高原町	0	0	0				0	0	0
国富町	10	10	10				10	10	10
綾町	10	0	10				10	0	10
高鍋町	80	50	60	0	0	0	80	50	60
新富町	100	40	60	0	0	0	100	40	60
西米良村	0	0	0				0	0	0
木城町	20	10	20				20	10	20
川南町	50	30	40	0	0	0	50	30	40
都農町	10	10	10	0	0	0	10	10	10
門川町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0				0	0	0
椎葉村	0	0	0				0	0	0
美郷町	0	0	0				0	0	0
高千穂町	0	0	0				0	0	0
日之影町	0	0	0				0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0				0	0	0
合計	2,200	1,400	1,700	60	60	60	2,300	1,400	1,800

－：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

上水道（日向灘北部地震）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約397,000	約295,000	74%	約135,000	34%	約59,000	15%	約4,200	1%
都城市	約160,000	約46,000	29%	約6,700	4%	約1,900	1%	-	0%
延岡市	約121,000	約117,000	97%	約101,000	83%	約64,000	53%	約12,000	10%
日南市	約53,000	約20,000	38%	約5,800	11%	約2,600	5%	約40	0%
小林市	約44,000	約13,000	29%	約2,000	4%	約550	1%	-	0%
日向市	約60,000	約59,000	99%	約54,000	90%	約37,000	62%	約9,100	15%
串間市	約18,000	約3,600	20%	約700	4%	約390	2%	-	0%
西都市	約27,000	約25,000	95%	約20,000	74%	約11,000	41%	約1,800	7%
えびの市	約19,000	約5,900	31%	約1,100	6%	約350	2%	-	0%
三股町	約25,000	約6,100	24%	約760	3%	約200	1%	-	0%
高原町	約8,900	約2,500	28%	約340	4%	約90	1%	-	0%
国富町	約19,000	約15,000	78%	約6,800	35%	約2,500	13%	約190	1%
綾町	約7,000	約4,900	70%	約2,100	30%	約850	12%	約70	1%
高鍋町	約20,000	約20,000	98%	約17,000	86%	約11,000	53%	約1,900	9%
新富町	約18,000	約17,000	97%	約14,000	81%	約8,700	49%	約1,400	8%
西米良村	約710	約290	41%	約60	9%	約20	3%	-	0%
木城町	約4,900	約4,800	98%	約4,200	86%	約2,700	56%	約600	12%
川南町	約15,000	約15,000	96%	約12,000	78%	約7,000	46%	約1,100	7%
都農町	約10,000	約9,900	99%	約8,800	88%	約5,700	57%	約1,100	11%
門川町	約18,000	約17,000	99%	約16,000	89%	約11,000	62%	約2,300	13%
諸塚村	約710	約310	44%	約80	12%	約30	4%	-	0%
椎葉村	約740	約560	75%	約230	32%	約90	12%	約10	1%
美郷町	約5,000	約990	20%	約130	3%	約40	1%	-	0%
高千穂町	約11,000	約3,900	34%	約840	7%	約260	2%	-	0%
日之影町	約2,700	約550	21%	約90	3%	約30	1%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,800	約1,700	61%	約560	20%	約190	7%	-	0%
合計	約1,068,000	約706,000	66%	約409,000	38%	約227,000	21%	約36,000	3%

- : わずか

(注1) 断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

上水道（日向灘南部地震）

市町村	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
宮崎市	約397,000	約387,000	98%	約331,000	83%	約206,000	52%	約39,000	10%
都城市	約160,000	約112,000	70%	約41,000	26%	約14,000	9%	約430	0%
延岡市	約121,000	約71,000	59%	約26,000	21%	約11,000	9%	約230	0%
日南市	約53,000	約51,000	98%	約44,000	85%	約29,000	55%	約5,800	11%
小林市	約44,000	約22,000	50%	約6,100	14%	約2,000	4%	約40	0%
日向市	約60,000	約52,000	86%	約31,000	51%	約15,000	25%	約1,700	3%
串間市	約18,000	約15,000	87%	約9,500	53%	約4,500	25%	約530	3%
西都市	約27,000	約25,000	96%	約21,000	78%	約12,000	45%	約2,100	8%
えびの市	約19,000	約8,700	46%	約2,400	13%	約790	4%	約10	0%
三股町	約25,000	約20,000	78%	約7,800	31%	約2,800	11%	約110	0%
高原町	約8,900	約4,600	51%	約1,300	15%	約420	5%	約10	0%
国富町	約19,000	約18,000	90%	約11,000	58%	約5,200	27%	約680	4%
綾町	約7,000	約6,400	91%	約4,400	63%	約2,300	33%	約320	5%
高鍋町	約20,000	約20,000	98%	約17,000	86%	約11,000	54%	約1,900	9%
新富町	約18,000	約18,000	99%	約16,000	89%	約11,000	60%	約2,400	13%
西米良村	約710	約420	59%	約140	20%	約50	7%	-	0%
木城町	約4,900	約4,800	98%	約4,200	85%	約2,700	55%	約550	11%
川南町	約15,000	約15,000	97%	約12,000	81%	約7,400	49%	約1,100	8%
都農町	約10,000	約9,300	93%	約6,700	66%	約3,400	34%	約500	5%
門川町	約18,000	約13,000	75%	約6,000	34%	約2,900	16%	約110	1%
諸塚村	約710	約360	52%	約110	15%	約30	5%	-	0%
椎葉村	約740	約80	11%	約10	2%	-	0%	-	0%
美郷町	約5,000	約4,700	94%	約3,600	71%	約1,900	39%	約290	6%
高千穂町	約11,000	約4,400	38%	約970	9%	約300	3%	-	0%
日之影町	約2,700	約1,300	50%	約380	14%	約120	4%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,800	約1,700	60%	約540	19%	約180	6%	-	0%
合計	約1,068,000	約885,000	83%	約605,000	57%	約346,000	32%	約58,000	5%

- : わずか

(注1) 断水率は各市町村の給水人口に占める断水人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

下水道（日向灘北部地震）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約375,000	約247,000	66%	約52,000	14%	約8,500	2%	約70	0%
都城市	約84,000	約22,000	26%	約1,300	2%	約90	0%	-	0%
延岡市	約100,000	約90,000	90%	約47,000	47%	約5,500	6%	約330	0%
日南市	約22,000	約7,400	33%	約1,100	5%	約460	2%	-	0%
小林市	約16,000	約4,100	26%	約260	2%	約20	0%	-	0%
日向市	約38,000	約35,000	94%	約22,000	57%	約2,600	7%	約350	1%
串間市	約4,800	約910	19%	約120	2%	約80	2%	-	0%
西都市	約17,000	約15,000	87%	約6,300	37%	約180	1%	約10	0%
えびの市									
三股町	約12,000	約2,700	22%	約130	1%	約10	0%	-	0%
高原町	約660	約170	26%	約10	1%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約5,600	70%	約1,200	15%	約30	0%	-	0%
綾町	約4,600	約2,800	61%	約480	10%	約10	0%	-	0%
高鍋町	約7,200	約6,700	93%	約3,500	49%	約230	3%	約10	0%
新富町									
西米良村	約530	約190	37%	約20	3%	-	0%	-	0%
木城町	約3,700	約3,400	91%	約1,800	49%	約130	4%	約10	0%
川南町	約4,500	約4,000	89%	約1,800	41%	約210	5%	-	0%
都農町									
門川町	約1,600	約1,500	93%	約880	55%	約160	10%	約10	1%
諸塚村	約230	約90	38%	約10	4%	-	0%	-	0%
椎葉村	約30	約10	17%	-	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,300	約1,500	67%	約270	12%	-	0%	-	0%
高千穂町	約4,000	約720	18%	約40	1%	-	0%	-	0%
日之影町	約260	約80	30%	約10	3%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約706,000	約451,000	64%	約140,000	20%	約18,000	3%	約820	0%

- : わずか

(注1) 機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

下水道（日向灘南部地震）

市町村	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)	支障人口 (人)	機能支 障率 (%)
宮崎市	約375,000	約344,000	92%	約180,000	48%	約16,000	4%	約880	0%
都城市	約84,000	約53,000	63%	約8,000	9%	約140	0%	約10	0%
延岡市	約100,000	約51,000	51%	約9,500	9%	約3,300	3%	約10	0%
日南市	約22,000	約20,000	91%	約10,000	46%	約1,000	5%	約50	0%
小林市	約16,000	約6,800	44%	約780	5%	約20	0%	-	0%
日向市	約38,000	約29,000	76%	約8,700	23%	約900	2%	約30	0%
串間市	約4,800	約3,800	78%	約1,200	26%	約100	2%	-	0%
西都市	約17,000	約15,000	89%	約7,000	42%	約300	2%	約20	0%
えびの市									
三股町	約12,000	約8,500	71%	約1,400	12%	約20	0%	-	0%
高原町	約660	約300	45%	約40	5%	-	0%	-	0%
国富町	約8,000	約6,600	82%	約2,300	29%	約60	1%	-	0%
綾町	約4,600	約3,700	81%	約1,300	28%	約30	1%	-	0%
高鍋町	約7,200	約6,700	93%	約3,500	48%	約200	3%	約10	0%
新富町									
西米良村	約530	約270	51%	約30	7%	-	0%	-	0%
木城町	約3,700	約3,400	91%	約1,800	48%	約120	3%	約10	0%
川南町	約4,500	約4,100	91%	約2,000	44%	約220	5%	約10	0%
都農町									
門川町	約1,600	約1,100	67%	約260	16%	約100	6%	-	0%
諸塚村	約230	約40	18%	-	1%	-	0%	-	0%
椎葉村	約30	-	13%	-	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,300	約1,000	46%	約120	5%	-	0%	-	0%
高千穂町	約4,000	約1,300	34%	約120	3%	-	0%	-	0%
日之影町	約260	約110	44%	約10	5%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町									
合計	約706,000	約560,000	79%	約238,000	34%	約23,000	3%	約1,000	0%

- : わずか

(注1) 機能支障率は各市町村の処理人口に占める支障人口の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

電力（日向灘北部地震）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約228,000	約150,000	66%	約31,000	14%	約5,900	3%	約4,900	2%
都城市	約97,000	約25,000	26%	約1,500	2%	約10	0%	約100	0%
延岡市	約73,000	約66,000	90%	約33,000	46%	約7,400	10%	約3,000	4%
日南市	約33,000	約11,000	33%	約1,600	5%	約670	2%	約690	2%
小林市	約28,000	約7,400	26%	約460	2%	-	0%	約30	0%
日向市	約35,000	約32,000	93%	約19,000	55%	約4,600	13%	約1,400	4%
串間市	約13,000	約2,400	19%	約320	2%	約210	2%	約220	2%
西都市	約18,000	約16,000	87%	約6,500	36%	約840	5%	約90	1%
えびの市	約14,000	約3,700	27%	約260	2%	-	0%	約10	0%
三股町	約13,000	約2,900	22%	約140	1%	-	0%	約10	0%
高原町	約5,900	約1,500	26%	約80	1%	-	0%	約10	0%
国富町	約11,000	約7,800	70%	約1,700	15%	約120	1%	約30	0%
綾町	約4,300	約2,600	61%	約440	10%	約20	0%	約10	0%
高鍋町	約12,000	約12,000	93%	約5,900	48%	約1,000	8%	約210	2%
新富町	約8,700	約7,800	90%	約3,600	42%	約580	7%	約160	2%
西米良村	約1,100	約410	36%	約40	3%	-	0%	-	0%
木城町	約2,700	約2,500	90%	約1,300	46%	約230	8%	約30	1%
川南町	約8,700	約7,800	89%	約3,500	40%	約710	8%	約350	4%
都農町	約5,800	約5,500	94%	約3,000	51%	約540	9%	約80	1%
門川町	約9,500	約8,800	93%	約5,000	53%	約1,400	15%	約760	8%
諸塚村	約1,600	約600	38%	約60	4%	-	0%	-	0%
椎葉村	約2,400	約410	17%	約20	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約4,500	約3,000	67%	約530	12%	約20	0%	約10	0%
高千穂町	約7,700	約1,400	18%	約70	1%	約10	0%	約10	0%
日之影町	約2,900	約850	30%	約70	2%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,500	約460	18%	約20	1%	-	0%	-	0%
合計	約644,000	約379,000	59%	約120,000	19%	約24,000	4%	約12,000	2%

- : わずか

(注1) 停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

電力（日向灘南部地震）

市町村	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
宮崎市	約228,000	約208,000	91%	約106,000	46%	約21,000	9%	約6,700	3%
都城市	約97,000	約61,000	63%	約9,100	9%	約150	0%	約100	0%
延岡市	約73,000	約37,000	51%	約6,800	9%	約2,400	3%	約2,400	3%
日南市	約33,000	約30,000	90%	約15,000	45%	約2,900	9%	約950	3%
小林市	約28,000	約12,000	44%	約1,400	5%	約10	0%	約30	0%
日向市	約35,000	約27,000	76%	約7,800	23%	約1,300	4%	約740	2%
串間市	約13,000	約10,000	78%	約3,300	25%	約500	4%	約230	2%
西都市	約18,000	約16,000	89%	約7,300	40%	約1,000	6%	約120	1%
えびの市	約14,000	約5,500	40%	約570	4%	-	0%	約10	0%
三股町	約13,000	約9,000	71%	約1,400	11%	約30	0%	約10	0%
高原町	約5,900	約2,700	45%	約310	5%	-	0%	約10	0%
国富町	約11,000	約9,100	82%	約3,100	28%	約330	3%	約40	0%
綾町	約4,300	約3,500	81%	約1,200	27%	約120	3%	約10	0%
高鍋町	約12,000	約12,000	93%	約5,800	47%	約930	7%	約190	2%
新富町	約8,700	約8,100	94%	約4,700	54%	約1,000	12%	約260	3%
西米良村	約1,100	約560	51%	約70	6%	-	0%	-	0%
木城町	約2,700	約2,500	91%	約1,200	46%	約210	8%	約30	1%
川南町	約8,700	約7,900	91%	約3,800	43%	約770	9%	約360	4%
都農町	約5,800	約5,000	85%	約1,900	32%	約220	4%	約30	0%
門川町	約9,500	約6,300	67%	約1,500	16%	約600	6%	約580	6%
諸塚村	約1,600	約280	18%	約10	1%	-	0%	-	0%
椎葉村	約2,400	約320	13%	約10	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約4,500	約2,000	45%	約240	5%	-	0%	-	0%
高千穂町	約7,700	約100	1%	-	0%	-	0%	-	0%
日之影町	約2,900	約300	10%	約20	1%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約2,500	約170	7%	約10	0%	-	0%	-	0%
合計	約644,000	約477,000	74%	約182,000	28%	約34,000	5%	約13,000	2%

- : わずか

(注1) 停電率は各市町村の電灯軒数に占める停電軒数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
③ライフライン被害	電力（ブラックアウト（全系崩壊）の発生）

■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物の被害	<p>→九州地域も大きな揺れに見舞われることで、原子力発電所の安全確認に時間を要したり、別府湾沿岸の火力発電所などが、揺れ・液状化・津波等により広範囲で同時に電力供給停止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れにより複数の送電線が全て断絶する。 ・複数の発電所が機能停止、電力ネットワークの障害により、ブラックアウトが発生する。

ブラックアウトの影響	<ul style="list-style-type: none"> ・水道施設の停電により、大規模な断水が始まる。 ・各企業の工場が操業停止となる。 ・工場以外の生産・サービス業が営業停止となる。 ・宮崎空港では欠航便が発生する。 ・信号停止により貨物輸送が停止、鉄道輸送、空輸等の中止により流通に大きな影響を生じる。 ・医療機関が非常用電源のみで対応できなくなる。 ・県全域の停電により、多くの市町村や避難所から物資の支援要請があり情報が錯綜する。 ・災害対策本部に配置すべき職員が停電により参集できない。
------------	---

③ライフライン被害

通信 固定電話（日向灘北部地震）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約115,000	約75,000	66%	約16,000	14%	約2,500	2%	-	0%
都城市	約50,000	約13,000	26%	約760	2%	約50	0%	-	0%
延岡市	約35,000	約32,000	90%	約16,000	46%	約1,500	4%	約110	0%
日南市	約20,000	約6,800	33%	約1,000	5%	約430	2%	-	0%
小林市	約18,000	約4,700	26%	約290	2%	約20	0%	-	0%
日向市	約18,000	約16,000	93%	約9,700	55%	約720	4%	約40	0%
串間市	約7,500	約1,400	19%	約180	2%	約130	2%	-	0%
西都市	約10,000	約8,900	87%	約3,700	36%	約50	1%	-	0%
えびの市	約8,200	約2,200	27%	約160	2%	約10	0%	-	0%
三股町	約6,400	約1,400	22%	約70	1%	約10	0%	-	0%
高原町	約3,700	約950	26%	約50	1%	-	0%	-	0%
国富町	約6,400	約4,500	70%	約980	15%	約20	0%	-	0%
綾町	約2,300	約1,400	61%	約230	10%	-	0%	-	0%
高鍋町	約6,700	約6,200	93%	約3,200	48%	約120	2%	-	0%
新富町	約5,400	約4,900	90%	約2,300	42%	約100	2%	-	0%
西米良村	約630	約230	36%	約20	3%	-	0%	-	0%
木城町	約1,600	約1,500	90%	約760	46%	約20	1%	-	0%
川南町	約5,300	約4,700	89%	約2,100	40%	約210	4%	-	0%
都農町	約3,500	約3,300	94%	約1,800	51%	約50	1%	-	0%
門川町	約4,600	約4,300	93%	約2,500	54%	約460	10%	約100	2%
諸塚村	約820	約310	38%	約30	4%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,200	約200	17%	約10	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,200	約1,500	67%	約260	12%	-	0%	-	0%
高千穂町	約2,500	約450	18%	約20	1%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,200	約350	30%	約30	2%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,400	約250	18%	約10	1%	-	0%	-	0%
合計	約337,000	約197,000	58%	約62,000	18%	約6,400	2%	約250	0%

- : わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

通信 携帯電話（日向灘北部地震）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	10%	A	23%	-	12%	-	12%	-
都城市	4%	-	5%	-	4%	-	4%	-
延岡市	13%	A	59%	B	23%	-	17%	-
日南市	5%	C	10%	-	7%	-	7%	-
小林市	4%	-	5%	-	4%	-	4%	-
日向市	14%	A	69%	A	27%	-	18%	-
串間市	3%	-	5%	-	4%	-	4%	-
西都市	13%	A	49%	C	17%	-	13%	-
えびの市	4%	-	6%	-	4%	-	4%	-
三股町	3%	-	4%	-	3%	-	3%	-
高原町	4%	-	5%	-	4%	-	4%	-
国富町	10%	A	25%	-	11%	-	11%	-
綾町	9%	A	19%	-	9%	-	9%	-
高鍋町	14%	A	61%	B	22%	-	15%	-
新富町	13%	A	55%	B	20%	-	15%	-
西米良村	5%	C	9%	-	5%	-	5%	-
木城町	13%	A	60%	B	22%	-	14%	-
川南町	13%	A	53%	B	21%	-	17%	-
都農町	14%	A	65%	A	23%	-	15%	-
門川町	14%	A	66%	A	29%	-	22%	-
諸塚村	6%	C	9%	-	6%	-	6%	-
椎葉村	3%	-	3%	-	3%	-	3%	-
美郷町	10%	A	22%	-	10%	-	10%	-
高千穂町	3%	-	4%	-	3%	-	3%	-
日之影町	4%	-	7%	-	4%	-	4%	-
五ヶ瀬町	3%	-	4%	-	3%	-	3%	-
合計	9%	A	27%	-	12%	-	11%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A:非常につながりにくい、B:つながりにくい。C:ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

通信 固定電話（日向灘南部地震）

市町村	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
宮崎市	約115,000	約105,000	91%	約53,000	47%	約3,500	3%	約90	0%
都城市	約50,000	約31,000	63%	約4,600	9%	約50	0%	-	0%
延岡市	約35,000	約18,000	51%	約3,300	9%	約1,200	3%	約10	0%
日南市	約20,000	約18,000	90%	約9,100	45%	約620	3%	約30	0%
小林市	約18,000	約7,900	44%	約880	5%	約20	0%	-	0%
日向市	約18,000	約13,000	76%	約4,000	23%	約380	2%	-	0%
串間市	約7,500	約5,900	78%	約1,900	25%	約130	2%	-	0%
西都市	約10,000	約9,100	89%	約4,100	40%	約70	1%	-	0%
えびの市	約8,200	約3,300	40%	約340	4%	約10	0%	-	0%
三股町	約6,400	約4,600	71%	約730	11%	約10	0%	-	0%
高原町	約3,700	約1,700	45%	約190	5%	-	0%	-	0%
国富町	約6,400	約5,300	82%	約1,800	28%	約20	0%	-	0%
綾町	約2,300	約1,800	81%	約610	27%	約10	0%	-	0%
高鍋町	約6,700	約6,300	93%	約3,100	47%	約110	2%	-	0%
新富町	約5,400	約5,100	94%	約3,000	54%	約160	3%	-	0%
西米良村	約630	約320	51%	約40	6%	-	0%	-	0%
木城町	約1,600	約1,500	91%	約740	46%	約20	1%	-	0%
川南町	約5,300	約4,800	91%	約2,300	43%	約220	4%	約10	0%
都農町	約3,500	約3,000	85%	約1,100	32%	約20	0%	-	0%
門川町	約4,600	約3,100	67%	約750	16%	約280	6%	-	0%
諸塚村	約820	約150	18%	約10	1%	-	0%	-	0%
椎葉村	約1,200	約160	13%	約10	1%	-	0%	-	0%
美郷町	約2,200	約990	45%	約110	5%	-	0%	-	0%
高千穂町	約2,500	約30	1%	-	0%	-	0%	-	0%
日之影町	約1,200	約120	10%	約10	1%	-	0%	-	0%
五ヶ瀬町	約1,400	約90	7%	-	0%	-	0%	-	0%
合計	約337,000	約251,000	74%	約96,000	28%	約6,800	2%	約130	0%

- : わずか

(注1) 不通回線率は各市町村の回線数に占める不通回線数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

通信 携帯電話（日向灘南部地震）

市町村	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク	停波 基地局率 (%)	不通ラ ンク
宮崎市	13%	A	60%	B	23%	-	16%	-
都城市	9%	A	19%	-	9%	-	9%	-
延岡市	8%	A	17%	-	11%	-	11%	-
日南市	13%	A	58%	B	22%	-	16%	-
小林市	6%	B	11%	-	6%	-	7%	-
日向市	11%	A	34%	-	15%	-	13%	-
串間市	12%	A	37%	-	15%	-	13%	-
西都市	13%	A	53%	B	19%	-	14%	-
えびの市	6%	C	10%	-	6%	-	6%	-
三股町	10%	A	22%	-	11%	-	11%	-
高原町	7%	B	12%	-	7%	-	7%	-
国富町	12%	A	40%	-	15%	-	12%	-
綾町	12%	A	39%	-	15%	-	12%	-
高鍋町	14%	A	60%	B	21%	-	15%	-
新富町	14%	A	68%	A	26%	-	17%	-
西米良村	7%	A	14%	-	8%	-	8%	-
木城町	13%	A	59%	B	21%	-	14%	-
川南町	13%	A	56%	B	22%	-	17%	-
都農町	12%	A	45%	C	16%	-	13%	-
門川町	10%	A	26%	-	16%	-	16%	-
諸塚村	3%	-	4%	-	3%	-	3%	-
椎葉村	2%	-	3%	-	2%	-	2%	-
美郷町	7%	B	12%	-	7%	-	7%	-
高千穂町	0%	-	0%	-	0%	-	0%	-
日之影町	2%	-	2%	-	2%	-	2%	-
五ヶ瀬町	1%	-	1%	-	1%	-	1%	-
合計	11%	A	39%	-	16%	-	13%	-

- : わずか

(注1) 停波基地局率は、基地局全体に占める停波した基地局の割合としました。

(注2) 携帯電話不通ランク A:非常につながりにくい、B:つながりにくい。C:ややつながりにくい

(注3) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

ガス 都市ガス（日向灘北部地震）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約51,000	約46,000	約36,000	79%	約34,000	75%	約24,000	52%	-	0%
都城	約19,000	約19,000	約15,000	79%	約14,000	75%	約9,900	52%	-	0%
延岡	約11,000	約6,900	約5,500	79%	約5,200	75%	約3,600	52%	-	0%
合計	約81,000	約72,000	約57,000	79%	約54,000	75%	約37,000	52%	-	0%

- : わずか

(注1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

③ライフライン被害

ガス 都市ガス（日向灘南部地震）

供給 エリア	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
			供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)	供給停止 戸数(戸)	供給停止 率(%)
宮崎	約51,000	約39,000	約31,000	79%	約29,000	75%	約20,000	52%	-	0%
都城	約19,000	約19,000	約15,000	79%	約14,000	75%	約9,700	52%	-	0%
延岡	約11,000	約9,300	約7,400	79%	約7,000	75%	約4,800	52%	-	0%
合計	約81,000	約67,000	約53,000	79%	約50,000	75%	約35,000	52%	-	0%

- : わずか

(注1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた供給エリアの需要家数に占める供給停止戸数の割合としました。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

道路 (日向灘北部地震)

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波 浸水	計 (箇所)
宮崎市	-	約180	約180
都城市		約70	約70
延岡市	-	約100	約100
日南市	-	約20	約30
小林市		約30	約30
日向市	約10	約60	約60
串間市	-	約10	約10
西都市		約40	約40
えびの市		約20	約20
三股町		-	-
高原町		約10	約10
国富町		約20	約20
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約20	約20
新富町	-	約20	約20
西米良村		約10	約10
木城町		約10	約10
川南町	-	約20	約20
都農町	-	約20	約20
門川町	-	約20	約20
諸塚村		約10	約10
椎葉村		約10	約10
美郷町		約30	約30
高千穂町		約10	約10
日之影町		約10	約10
五ヶ瀬町		-	-
合計	約20	約750	約770

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

道路（日向灘南部地震）

市町村	津波浸水域 被害(箇所)	津波 浸水	計 (箇所)
宮崎市	約10	約230	約240
都城市		約120	約120
延岡市	-	約50	約50
日南市	-	約60	約60
小林市		約50	約50
日向市	-	約50	約50
串間市	-	約30	約30
西都市		約40	約40
えびの市		約30	約30
三股町		約10	約10
高原町		約10	約10
国富町		約30	約30
綾町		約10	約10
高鍋町	-	約20	約20
新富町	-	約20	約20
西米良村		約10	約10
木城町		約10	約10
川南町	-	約20	約20
都農町	-	約20	約20
門川町	-	約10	約10
諸塚村		-	-
椎葉村		約10	約10
美郷町		約30	約30
高千穂町		-	-
日之影町		-	-
五ヶ瀬町		-	-
合計	約10	約870	約880

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

鉄道（日向灘北部地震）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	約10	約270	約280
日南線	-	約50	約50
吉都線	-	約40	約40
肥薩線	-	-	-
宮崎空港線	-	-	-
合計	約10	約370	約380

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

鉄道（日向灘南部地震）

路線	津波浸水域 被害(箇所)	津波浸水域外 被害(箇所)	計 (箇所)
日豊本線	-	約290	約290
日南線	-	約180	約180
吉都線	-	約60	約60
肥薩線	-	約10	約10
宮崎空港線	-	-	-
合計	約10	約530	約540

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、路線別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾（日向灘北部地震）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	23	9	26	11
	宮崎港	12	0	21	1
	油津港	10	0	16	0
	小計	45	9	63	12
地方	古江港	0	0	32	4
	熊野江港	0	0	7	1
	延岡港	1	0	14	5
	延岡新港	7	3	2	1
	美々津港	0	0	15	6
	内海港	2	0	16	0
	外浦港	5	0	26	0
	福島港	2	0	35	0
	黒井港	0	0	2	0
	大島港	0	0	8	0
	大納港	0	0	2	0
	平岩港	0	0	4	2
	小計	17	3	163	19
	合計		62	12	226

－ ：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾（日向灘南部地震）

区分	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
重要	細島港	23	1	26	1
	宮崎港	12	4	21	7
	油津港	10	4	16	6
	小計	45	9	63	15
地方	古江港	0	0	32	0
	熊野江港	0	0	7	0
	延岡港	1	0	14	0
	延岡新港	7	0	2	0
	美々津港	0	0	15	3
	内海港	2	1	16	7
	外浦港	5	1	26	7
	福島港	2	0	35	8
	黒井港	0	0	2	0
	大島港	0	0	8	2
	大納港	0	0	2	0
	平岩港	0	0	4	1
	小計	17	3	163	28
	合計		62	12	226

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾 防波堤（日向灘北部地震）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約0
	宮崎港	約4,100	約0
	油津港	約1,700	約0
	小計	約8,200	約0
地方	古江港	約2,300	約0
	熊野江港	約410	約0
	延岡港	約1,300	約0
	延岡新港	約1,700	約0
	美々津港	約1,400	約0
	内海港	約1,200	約210
	外浦港	約600	約0
	福島港	約2,200	-
	黒井港	約280	約0
	大島港	約540	約0
	大納港	約280	約0
	平岩港	約320	約0
	小計	約12,000	約210
	合計		約21,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

港湾 防波堤（日向灘南部地震）

区分	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
重要	細島港	約2,300	約0
	宮崎港	約4,100	約0
	油津港	約1,700	約0
	小計	約8,200	約0
地方	古江港	約2,300	約0
	熊野江港	約410	約0
	延岡港	約1,300	約0
	延岡新港	約1,700	約0
	美々津港	約1,400	約0
	内海港	約1,200	約210
	外浦港	約600	約0
	福島港	約2,200	約0
	黒井港	約280	約0
	大島港	約540	約0
	大納港	約280	約0
	平岩港	約320	約0
	小計	約12,000	約210
	合計		約21,000

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、港湾別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港（日向灘北部地震）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	3	1	11	2
1	富田漁港	1	-	6	1
1	野島漁港	1	-	5	1
1	鶯巣漁港			3	1
1	富士漁港			5	1
1	宮浦漁港			4	1
1	鶴戸漁港			5	1
1	夫婦浦漁港	1	-	3	-
1	市木漁港	2	-	9	1
1	本城漁港			7	1
1	福島高松漁港			2	-
2	川南漁港	4	1	9	2
2	青島漁港	3	1	12	2
2	大堂津漁港	5	1	4	1
2	南浦漁港	1	-	13	2
2	都井漁港	2	-	11	2
3	島野浦漁港	12	2	12	2
3	土々呂漁港	3	1	22	5
3	門川漁港	8	1	15	3
3	油津漁港	1	-	15	-
3	目井津漁港	8	1	12	2
4	北浦漁港	13	2	20	3
4	宮之浦漁港	3	-	9	2
合計		71	13	214	35

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港（日向灘南部地震）

種別	名称	岸壁		その他係留施設	
		岸壁数(箇所)	被害数(箇所)	施設数(箇所)	被害数(箇所)
1	都農漁港	3	-	11	-
1	富田漁港	1	-	6	-
1	野島漁港	1	-	5	-
1	鶯巣漁港			3	-
1	富士漁港			5	-
1	宮浦漁港			4	-
1	鶴戸漁港			5	-
1	夫婦浦漁港	1	-	3	-
1	市木漁港	2	-	9	-
1	本城漁港			7	-
1	福島高松漁港			2	-
2	川南漁港	4	1	9	1
2	青島漁港	3	-	12	-
2	大堂津漁港	5	-	4	-
2	南浦漁港	1	-	13	-
2	都井漁港	2	-	11	-
3	島野浦漁港	12	-	12	-
3	土々呂漁港	3	-	22	-
3	門川漁港	8	-	15	-
3	油津漁港	1	-	15	6
3	目井津漁港	8	-	12	-
4	北浦漁港	13	-	20	-
4	宮之浦漁港	3	-	9	-
合計		71	2	214	7

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港 防波堤（日向灘北部地震）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約0
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約300
1	鶯巣漁港	約100	約0
1	富士漁港	約70	-
1	宮浦漁港	約340	約0
1	鵜戸漁港	約380	約0
1	夫婦浦漁港	約150	約0
1	市木漁港	約1,200	約0
1	本城漁港	約240	約100
1	福島高松漁港	約690	-
2	川南漁港	約1,600	約20
2	青島漁港	約1,200	約410
2	大堂津漁港	約700	-
2	南浦漁港	約3,900	約120
2	都井漁港	約970	約80
3	島野浦漁港	約1,200	約0
3	土々呂漁港	約410	約20
3	門川漁港	約3,200	約0
3	目井津漁港	約2,300	約0
4	北浦漁港	約1,700	約0
4	宮之浦漁港	約1,500	約150
合計		約23,000	約1,200

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

④交通施設被害

漁港 防波堤（日向灘南部地震）

種別	名称	防波堤 延長(m)	被災防波堤 延長(m)
1	都農漁港	約1,100	約0
1	富田漁港	-	-
1	野島漁港	約550	約300
1	鶯巣漁港	約100	約0
1	富士漁港	約70	約0
1	宮浦漁港	約340	約0
1	鵜戸漁港	約380	約0
1	夫婦浦漁港	約150	約0
1	市木漁港	約1,200	約0
1	本城漁港	約240	約100
1	福島高松漁港	約690	-
2	川南漁港	約1,600	約20
2	青島漁港	約1,200	約410
2	大堂津漁港	約700	約0
2	南浦漁港	約3,900	約110
2	都井漁港	約970	約80
3	島野浦漁港	約1,200	約0
3	土々呂漁港	約410	約20
3	門川漁港	約3,200	約0
3	目井津漁港	約2,300	約0
4	北浦漁港	約1,700	約0
4	宮之浦漁港	約1,500	約150
合計		約23,000	約1,200

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、漁港別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
④交通施設被害	空港（宮崎空港）

■被害様相

地震直後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎空港の一部が浸水する。 ・ターミナルビル前面の浸水深は最大1.0m程度となる。 ・空港内の最大浸水深は東側先端部で発生するが、5mは超えていない。 ・ターミナルビルは、昭和56年に改正した建築基準法に適合しており倒壊等の恐れは少ないが、天井の化粧板が落下するなど、非構造部材の損傷がいたるところで発生する。 ・電気、水道等のライフラインが停止する。 ・管制塔は大地震後でも機能継続が可能。 ・液状化発生可能性が高いと予想される。（液状化対策状況について確認が必要） ・震度6強以上の揺れにより、点検等のため閉鎖する。 ・津波により浸水し、漂流物や土砂の漂着、漂流物による施設の破損、場周柵の倒壊などの被害が発生する。 ・地盤沈下により、空港敷地が沈下した場合、津波による冠水が継続し、復旧が長期化する。
1日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・津波警報・注意報が解除されるまでの間、復旧作業や緊急輸送が滞る。
3日後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊の救援機の離着陸に必要な滑走路の土砂・がれきの除去等が完了し、緊急物資・人員輸送のための暫定運用が開始される。
1か月後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂やがれきの除去が完了し、民間機の暫定的な運用が再開される。

⑤生活への影響

避難者（日向灘北部地震）

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
			避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
宮崎市	約401,000	約13,000	約8,000	約5,300	約28,000	約14,000	約14,000	約17,000	約5,100	約12,000
都城市	約165,000	約320	約190	約130	約800	約400	約400	約320	約100	約220
延岡市	約125,000	約20,000	約12,000	約7,700	約32,000	約16,000	約15,000	約27,000	約8,200	約19,000
日南市	約54,000	約3,000	約1,900	約1,100	約2,700	約1,400	約1,300	約2,100	約640	約1,500
小林市	約47,000	約180	約110	約70	約320	約160	約160	約180	約50	約130
日向市	約62,000	約12,000	約7,600	約4,500	約17,000	約9,000	約7,600	約15,000	約4,600	約11,000
串間市	約19,000	約100	約60	約40	約180	約90	約90	約80	約20	約50
西都市	約31,000	約2,300	約1,400	約930	約5,300	約2,600	約2,600	約4,000	約1,200	約2,800
えびの市	約20,000	約300	約180	約120	約390	約190	約190	約300	約90	約210
三股町	約26,000	約20	約10	約10	約70	約40	約40	約20	約10	約10
高原町	約9,300	約10	約10	-	約30	約20	約20	約10	-	約10
国富町	約20,000	約180	約110	約70	約810	約400	約400	約350	約100	約240
綾町	約7,300	約30	約20	約10	約250	約130	約130	約90	約30	約70
高鍋町	約21,000	約1,900	約1,100	約760	約4,500	約2,200	約2,200	約3,500	約1,100	約2,500
新富町	約17,000	約920	約550	約370	約2,900	約1,500	約1,500	約2,100	約630	約1,500
西米良村	約1,100	約10	-	-	約10	約10	約10	約10	-	約10
木城町	約5,100	約470	約280	約190	約1,100	約560	約560	約990	約300	約690
川南町	約16,000	約840	約510	約330	約2,600	約1,300	約1,300	約1,800	約530	約1,200
都農町	約10,000	約1,300	約820	約530	約2,500	約1,300	約1,200	約2,100	約640	約1,500
門川町	約18,000	約5,000	約3,200	約1,900	約5,700	約3,200	約2,500	約5,100	約1,500	約3,600
諸塚村	約1,700	約10	約10	-	約30	約10	約10	約10	-	約10
椎葉村	約2,800	約10	約10	-	約90	約50	約50	約30	約10	約20
美郷町	約5,500	約70	約40	約30	約80	約40	約40	約70	約20	約50
高千穂町	約13,000	-	-	-	約70	約40	約40	約10	-	-
日之影町	約3,900	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
五ヶ瀬町	約3,900	約10	-	-	約70	約30	約30	約10	-	約10
合計	約1,104,000	約62,000	約38,000	約24,000	約106,000	約55,000	約52,000	約83,000	約25,000	約58,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

避難者（日向灘南部地震）

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
			避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
宮崎市	401,000	約43,000	約26,000	約17,000	約87,000	約44,000	約43,000	約72,000	約22,000	約51,000
都城市	165,000	約1,400	約820	約550	約5,000	約2,500	約2,500	約1,800	約530	約1,200
延岡市	125,000	約6,400	約3,900	約2,500	約8,700	約4,400	約4,300	約6,100	約1,800	約4,200
日南市	54,000	約9,800	約6,000	約3,800	約15,000	約7,700	約7,000	約13,000	約3,900	約9,000
小林市	47,000	約410	約250	約160	約920	約460	約460	約440	約130	約310
日向市	62,000	約3,900	約2,400	約1,500	約6,300	約3,200	約3,100	約4,200	約1,300	約2,900
串間市	19,000	約640	約390	約260	約1,800	約880	約880	約1,100	約330	約770
西都市	31,000	約2,500	約1,500	約1,000	約5,700	約2,900	約2,900	約4,600	約1,400	約3,200
えびの市	20,000	約370	約220	約150	約570	約280	約280	約380	約120	約270
三股町	26,000	約230	約140	約90	約920	約460	約460	約320	約100	約230
高原町	9,300	約30	約20	約10	約140	約70	約70	約40	約10	約30
国富町	20,000	約450	約270	約180	約1,700	約870	約870	約1,100	約320	約740
綾町	7,300	約180	約110	約70	約770	約380	約380	約480	約140	約330
高鍋町	21,000	約2,000	約1,200	約790	約4,500	約2,300	約2,300	約3,600	約1,100	約2,500
新富町	17,000	約1,600	約930	約620	約3,900	約2,000	約2,000	約3,500	約1,000	約2,400
西米良村	1,100	約10	約10	-	約30	約10	約10	約10	-	約10
木城町	5,100	約450	約270	約180	約1,100	約550	約550	約930	約280	約650
川南町	16,000	約990	約600	約390	約2,800	約1,400	約1,400	約2,000	約590	約1,400
都農町	10,000	約480	約290	約190	約1,300	約640	約620	約850	約250	約590
門川町	18,000	約1,600	約990	約650	約2,200	約1,100	約1,100	約1,700	約500	約1,200
諸塚村	1,700	約10	約10	-	約30	約20	約20	約10	-	約10
椎葉村	2,800	約10	約10	-	約10	約10	約10	約10	-	約10
美郷町	5,500	約40	約20	約20	約570	約280	約280	約320	約100	約230
高千穂町	13,000	-	-	-	約90	約40	約40	-	-	-
日之影町	3,900	-	-	-	約50	約20	約20	約10	-	-
五ヶ瀬町	3,900	-	-	-	約70	約30	約30	約10	-	約10
合計	1,104,000	約76,000	約46,000	約30,000	約151,000	約77,000	約75,000	約118,000	約36,000	約83,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

帰宅困難者（日向灘北部地震）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約219,000	約14,000
都城市	約87,000	約9,500
延岡市	約65,000	約3,100
日南市	約26,000	約1,600
小林市	約22,000	約2,400
日向市	約33,000	約2,400
串間市	約7,100	約630
西都市	約13,000	約1,800
えびの市	約8,300	約1,600
三股町	約8,900	約940
高原町	約3,000	約380
国富町	約8,600	約1,400
綾町	約3,000	約460
高鍋町	約11,000	約1,500
新富町	約8,100	約1,100
西米良村	約540	約100
木城町	約2,600	約430
川南町	約7,500	約860
都農町	約3,900	約530
門川町	約7,700	約690
諸塚村	約850	約90
椎葉村	約1,200	約90
美郷町	約2,100	約420
高千穂町	約5,900	約460
日之影町	約1,600	約220
五ヶ瀬町	約1,400	約130
合計	約558,000	約46,000

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

帰宅困難者（日向灘南部地震）

市町村	就業者・ 通学者数 (人)	帰宅困難 者(人)
宮崎市	約219,000	約14,000
都城市	約87,000	約9,500
延岡市	約65,000	約3,100
日南市	約26,000	約1,600
小林市	約22,000	約2,400
日向市	約33,000	約2,400
串間市	約7,100	約630
西都市	約13,000	約1,800
えびの市	約8,300	約1,600
三股町	約8,900	約940
高原町	約3,000	約380
国富町	約8,600	約1,400
綾町	約3,000	約460
高鍋町	約11,000	約1,500
新富町	約8,100	約1,100
西米良村	約540	約100
木城町	約2,600	約430
川南町	約7,500	約860
都農町	約3,900	約530
門川町	約7,700	約690
諸塚村	約850	約90
椎葉村	約1,200	約90
美郷町	約2,100	約420
高千穂町	約5,900	約460
日之影町	約1,600	約220
五ヶ瀬町	約1,400	約130
合計	約558,000	約46,000

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

物資 需要量 (日向灘北部地震)

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約401,000	約29,000	約404,000	約16,000	約50,000	約177,000	約13,000	約18,000	約13,000	約7,900
都城市	約165,000	約680	約20,000	約380	約1,400	約5,600	約320	約340	-	約190
延岡市	約125,000	約44,000	約302,000	約22,000	約59,000	約192,000	約19,000	約30,000	約37,000	約11,000
日南市	約54,000	約6,800	約17,000	約2,500	約5,200	約7,800	約2,200	約2,300	約120	約1,300
小林市	約47,000	約390	約5,900	約220	約580	約1,600	約180	約200	-	約110
日向市	約62,000	約27,000	約162,000	約10,000	約32,000	約112,000	約9,600	約17,000	約27,000	約5,200
串間市	約19,000	約210	約2,100	約90	約330	約1,200	約80	約80	約10	約50
西都市	約31,000	約5,000	約59,000	約2,800	約9,500	約33,000	約2,300	約4,400	約5,300	約1,400
えびの市	約20,000	約650	約3,400	約360	約700	約1,000	約300	約330	約10	約180
三股町	約26,000	約40	約2,300	約20	約130	約600	約20	約20	-	約10
高原町	約9,300	約20	約1,000	約10	約60	約270	約10	約10	-	約10
国富町	約20,000	約380	約20,000	約210	約1,400	約7,500	約180	約370	約560	約110
綾町	約7,300	約70	約6,300	約40	約450	約2,500	約30	約100	約200	約20
高鍋町	約21,000	約4,100	約52,000	約2,300	約8,000	約32,000	約1,900	約3,800	約5,800	約1,100
新富町	約17,000	約2,000	約43,000	約1,100	約5,300	約26,000	約920	約2,300	約4,300	約550
西米良村	約1,100	約20	約190	約10	約30	約50	約10	約10	-	-
木城町	約5,100	約1,000	約13,000	約570	約2,000	約8,200	約480	約1,100	約1,800	約290
川南町	約16,000	約1,800	約35,000	約970	約4,600	約21,000	約820	約1,900	約3,200	約490
都農町	約10,000	約3,000	約26,000	約1,500	約4,700	約17,000	約1,300	約2,300	約3,400	約740
門川町	約18,000	約11,000	約47,000	約4,300	約12,000	約33,000	約4,100	約5,500	約7,000	約2,100
諸塚村	約1,700	約30	約250	約10	約50	約80	約10	約10	-	約10
椎葉村	約2,800	約20	約700	約10	約170	約260	約10	約30	約20	約10
美郷町	約5,500	約140	約390	約80	約140	約110	約70	約70	-	約40
高千穂町	約13,000	-	約2,500	-	約130	約780	-	約10	約10	-
日之影町	約3,900	約10	約270	約10	約30	約90	-	-	-	-
五ヶ瀬町	約3,900	約10	約1,700	約10	約120	約560	約10	約10	約10	-
合計	約1,104,000	約138,000	約1,228,000	約65,000	約198,000	約681,000	約57,000	約90,000	約109,000	約33,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

物資 需要量 (日向灘南部地震)

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)	食糧 (食)	飲料水 (ℓ)	毛布 (枚)
宮崎市	約401,000	約93,000	約994,000	約49,000	約159,000	約619,000	約41,000	約78,000	約117,000	約24,000
都城市	約165,000	約2,900	約123,000	約1,600	約8,900	約42,000	約1,400	約1,900	約1,300	約820
延岡市	約125,000	約14,000	約78,000	約7,100	約16,000	約34,000	約5,900	約6,600	約690	約3,500
日南市	約54,000	約22,000	約133,000	約10,000	約28,000	約86,000	約9,000	約14,000	約17,000	約5,100
小林市	約47,000	約880	約18,000	約490	約1,700	約5,900	約410	約480	約110	約250
日向市	約62,000	約8,600	約92,000	約3,300	約12,000	約45,000	約2,800	約4,500	約5,100	約1,600
串間市	約19,000	約1,400	約29,000	約750	約3,200	約13,000	約620	約1,200	約1,600	約370
西都市	約31,000	約5,500	約62,000	約3,100	約10,000	約36,000	約2,500	約4,900	約6,300	約1,500
えびの市	約20,000	約800	約7,200	約440	約1,000	約2,400	約370	約410	約40	約220
三股町	約26,000	約490	約23,000	約270	約1,700	約8,300	約230	約350	約320	約140
高原町	約9,300	約70	約3,900	約40	約260	約1,300	約30	約40	約30	約20
国富町	約20,000	約970	約34,000	約540	約3,100	約16,000	約450	約1,100	約2,000	約270
綾町	約7,300	約390	約13,000	約220	約1,400	約6,900	約180	約510	約970	約110
高鍋町	約21,000	約4,300	約52,000	約2,400	約8,100	約33,000	約2,000	約3,900	約5,700	約1,200
新富町	約17,000	約3,400	約48,000	約1,900	約7,100	約32,000	約1,500	約3,700	約7,200	約930
西米良村	約1,100	約20	約420	約10	約50	約150	約10	約10	-	約10
木城町	約5,100	約970	約13,000	約540	約2,000	約8,100	約450	約1,000	約1,700	約270
川南町	約16,000	約2,200	約37,000	約1,100	約5,000	約22,000	約960	約2,100	約3,400	約560
都農町	約10,000	約1,100	約20,000	約490	約2,300	約10,000	約420	約920	約1,500	約240
門川町	約18,000	約3,600	約18,000	約1,900	約4,100	約8,700	約1,600	約1,800	約330	約940
諸塚村	約1,700	約20	約320	約10	約60	約100	約10	約10	-	約10
椎葉村	約2,800	約20	約30	約10	約30	約10	約10	約10	-	約10
美郷町	約5,500	約90	約11,000	約50	約1,000	約5,800	約40	約350	約870	約20
高千穂町	約13,000	-	約2,900	-	約160	約910	-	約10	約10	-
日之影町	約3,900	約10	約1,100	-	約90	約350	-	約10	約10	-
五ヶ瀬町	約3,900	約10	約1,600	約10	約120	約540	-	約10	約10	-
合計	約1,104,000	約166,000	約1,815,000	約85,000	約276,000	約1,039,000	約72,000	約128,000	約174,000	約43,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

医療機能（日向灘北部地震）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約30	約480	約270	約750	約1,000	約210
都城市	-	約10	-	約170	約170	-
延岡市	約610	約1,900	約1,000	約330	約1,400	約900
日南市	約10	約80	約30	約110	約140	約50
小林市	-	-	-	約50	約50	-
日向市	約640	約1,300	約650	約140	約860	約640
串間市	-	-	-	約10	約10	-
西都市	約30	約270	約150	約60	約220	約120
えびの市	-	-	-	約20	約20	-
三股町	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-
国富町	-	約30	約20	約20	約40	約10
綾町	-	約10	-	-	-	-
高鍋町	約30	約260	約150	約50	約200	約110
新富町	約10	約130	約80	-	約80	約60
西米良村	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	約70	約40	-	約40	約30
川南町	約20	約240	約140	約60	約200	約110
都農町	約40	約180	約100	約10	約120	約80
門川町	約270	約450	約220	約60	約310	約230
諸塚村	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	約10	約10	-	約10	約10
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-
合計	約1,700	約5,500	約2,900	約1,900	約4,900	約2,600

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑤生活への影響

医療機能（日向灘南部地震）

市町村	人的被害			要転院 患者数 (人)	医療需要	
	死者 (人)	負傷者 (人)	重傷者 (人)		要入院 (人)	要外来 (人)
宮崎市	約570	約3,400	約1,900	約1,100	約3,000	約1,500
都城市	-	約140	約80	約330	約410	約60
延岡市	約20	約140	約70	約220	約290	約70
日南市	約200	約1,100	約570	約220	約800	約490
小林市	-	約10	約10	約80	約80	-
日向市	約20	約230	約120	約110	約230	約100
串間市	約10	約140	約80	約30	約100	約60
西都市	約30	約300	約170	約70	約240	約130
えびの市	-	約10	-	約20	約30	-
三股町	-	約20	約10	約10	約20	約10
高原町	-	-	-	約10	約10	-
国富町	約10	約90	約50	約20	約70	約40
綾町	-	約40	約20	-	約20	約20
高鍋町	約30	約270	約150	約50	約210	約120
新富町	約20	約190	約110	-	約110	約80
西米良村	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	約70	約40	-	約40	約30
川南町	約40	約260	約150	約60	約210	約120
都農町	約10	約90	約50	約10	約60	約40
門川町	-	約40	約20	約40	約60	約20
諸塚村	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	約10	約10	-
高千穂町	-	-	-	約10	約10	-
日之影町	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-
合計	約990	約6,500	約3,600	約2,400	約6,100	約2,900

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
⑤生活への影響	保健衛生、防疫、遺体処理等

■被害様相

地震発生直後	
避難場所における衛生環境の悪化	<p>→津波避難ビルなどに一時的に避難した住民が、繰り返し襲う津波に対して、避難所へ移動するタイミングを逸し、地震発生時間によっては、夜を明かすことになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波揺れによる被害が甚大な、沿岸 10 市町を中心に、多数の避難者が避難所に避難し、避難所からあふれる事態が予想される。 ・一人当たりの居住スペースの減少、十分な数の毛布や非常食、災害用トイレ、暖房器具等の不足、健康管理のための医師・保健師等の不足、テントや車中泊による屋外生活者の発生など、保健衛生環境が悪化する。
下水処理機能の支障	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の広範囲にわたり下水処理機能に支障が生じるため、し尿などの処理が滞り、保健衛生環境が悪化する。 ・県内の多くの地域では浄化槽に頼っている。浄化槽は、比較的地震に強い施設・設備であるといわれているが、設置状況などによっては破損等の被害を受け、使用できない状況になることも十分に想定される。

概ね 1 日後～数日後	
遺体捜索、処理等に係る人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・死者・行方不明者の捜索範囲が極めて広範囲となり、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源の多くを投入するため、復旧活動に支障が生じる。 ・死者数が膨大であり、迅速な遺体処理が困難になる。 ・遺体の安置場所、棺、ドライアイスが不足し、夏季には遺体の腐乱等による衛生上の問題が発生する。 ・検死が可能な人員等が不足し、多数の遺体の身元確認が困難となる。

概ね 1 週間後	
暑さ対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の避難場所、仮設住宅における暑さ対策が求められるが、対応すべき場所が膨大な数となり、人的・物的資源の両面から対応が遅れる。その結果、高齢者・乳幼児を中心に熱中症や脱水症状、食中毒が発生する。
火葬場の不足、火葬の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの火葬場が強い揺れに見舞われ被災する上に、燃料不足等により火葬が困難となる。 ・火葬が困難な場合、衛生上の問題から土葬や仮埋葬が行われる。
畜舎などへの対策の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の被災、人、燃料、敷材などが不足し、畜舎などの衛生面が悪化し、家畜などへの衛生上の問題が発生する。 ・家畜伝染病の発生が重なれば、その処置のための人員確保は難しい。

概ね 1 年後	
行方不明者捜索の長期化	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年を経過しても行方不明者の捜索が終わらず、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源を引き続き投入することが必要となる。

⑥災害廃棄物等

災害廃棄物等（日向灘北部地震）

市町村	災害廃棄物(万トン)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約50	-	約50
都城市	-	-	-
延岡市	約80	約10	約100
日南市	約10	約10	約20
小林市	-	-	-
日向市	約40	約20	約60
串間市	-	約10	約10
西都市	約10	-	約10
えびの市	-	-	-
三股町	-	-	-
高原町	-	-	-
国富町	-	-	-
綾町	-	-	-
高鍋町	約10	-	約10
新富町	-	-	-
西米良村	-	-	-
木城町	-	-	-
川南町	約10	-	約10
都農町	約10	-	約10
門川町	約20	-	約20
諸塚村	-	-	-
椎葉村	-	-	-
美郷町	-	-	-
高千穂町	-	-	-
日之影町	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-
合計	約260	約60	約320

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑥災害廃棄物等

災害廃棄物等（日向灘南部地震）

市町村	災害廃棄物(万トン)		
	災害廃棄物	津波堆積物	計
宮崎市	約150	約20	約170
都城市	約10		
延岡市	約30	約10	約40
日南市	約50	約10	約60
小林市	-		
日向市	約20	約10	約20
串間市	約10	約10	約20
西都市	約10		
えびの市	-		
三股町	-		
高原町	-		
国富町	-		
綾町	-		
高鍋町	約10	-	約10
新富町	約10	-	約10
西米良村	-		
木城町	-		
川南町	約10	-	約10
都農町	-	-	-
門川町	約10	-	約10
諸塚村	-		
椎葉村	-		
美郷町	-		
高千穂町	-		
日之影町	-		
五ヶ瀬町	-		
合計	約310	約60	約380

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑦その他の被害

エレベータ内閉じ込め（日向灘北部地震）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約30	約60	約50	約130	-	-	約10	約10	-	約10
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
延岡市	-	約110	約10	約210	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約40	約10	約90	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約40	約220	約80	約440	-	-	約10	約10	-	約10

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑦その他の被害

エレベータ内閉じ込め（日向灘南部地震）

市町村	閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数（棟）		閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数（台）		エレベータ閉じ込め者数（人）					
					冬深夜		夏12時		冬18時	
	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅	事務所	住宅
宮崎市	約40	約90	約70	約180	-	-	約10	約10	-	約10
都城市	-	-	約10	約10	-	-	-	-	-	-
延岡市	-	約60	約10	約130	-	-	-	-	-	-
日南市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	約40	約10	約70	-	-	-	-	-	-
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都農町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
門川町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約50	約190	約100	約390	-	-	約10	約10	約10	約10

- : わずか

（注1）今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

区分	項目
⑦その他の被害	長周期地震動

■被害様相

地震発生直後	
上層階における揺れの増幅	<ul style="list-style-type: none"> 一部の高層ビルでは、揺れ始めに気付いた時点から、徐々に大きくゆっくりとした揺れになる。 地表の揺れが小さい遠隔地においても、高層ビルの上層階では揺れが大きく増幅する。 建物全体で見た場合、必ずしも最上階で揺れが最大となるとは限らず、高次モードの影響により、中間階においても局部的に応答が増幅する場合がある。 上層階の多くの人が、揺れによって動作上の支障があり、吐き気やめまいを感じる人も発生する。
屋内収容物転倒・落下による人的被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> 固定していない家具・什器の転倒、コピー機等のキャスター付什器の滑りによって、人的被害が発生する。 家具・什器を固定していても、正しい方法により固定されていない場合、本来の固定効果が発揮されず、転倒や滑りによる人的被害が発生する場合がある。
全館一斉避難の発生避難中の二次災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> 揺れに対する不安から、地上へ避難しようとする人が多数発生する。 建築物の防災設計は火災からの特定階避難を前提としているが、「全館一斉避難」が発生した場合、非常階段等に多数の在館者が殺到し、転倒等による二次災害が発生する。
火災の発生	<ul style="list-style-type: none"> 火災が発生した場合、十分な消火活動ができず、中間階からの火災の場合は、地上あるいは特定階への避難もできない可能性もあり、とり残される。
建物被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> 地震動の卓越周期と建物の固有周期が一致した場合、揺れが大きく増幅する。 病院などの中低層免震においても、免震層許容変位量を超える大変位やエキスパンションジョイント被害等が発生する場合がある。
建物内被害状況確認における支障	<ul style="list-style-type: none"> エレベータが停止しているため、階段での移動が必要となり、大規模な建物であるほど各フロアの被害確認に多くの時間・労力を要する。 被災の影響により技術者の数が不足し、構造安全性の詳細確認までに1週間以上を要する。

概ね1日後～数日後	
事業継続・生活機能継続への影響	<ul style="list-style-type: none"> オフィスビルでは、非常用発電機の無給油連続運転時間は最長3日間程度であり、系統電力の供給停止が長期化した場合、事業継続が困難となる。 エレベータが止まったマンションでは、停電・断水等によりいわゆる「高層難民」となる上層階居住者が多数発生する。特に階段の昇降に必要な体力が低下している高齢者等にとって、生活を継続することが困難となる場合がある。 津波浸水により、地下室の電源施設が冠水した場合は、各種ライフラインが停止し、その復旧に時間を要することから、住民の生活に大きな支障が発生し、場合によっては避難所生活を強いられることとなる。

地域防災貢献への影響	・事前に行政と協定を締結していた高層ビルでも、安全確認に時間を要するなどの理由により、災害時の施設利用による地域貢献ができなくなる。
------------	--

区分	項目
⑦その他の被害	道路閉塞

■被害様相

地震発生直後	
沿道の建造物の倒壊、火災等による道路閉塞の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・幅員の狭い道路を中心として、沿道の建物被害により道路が閉塞し、緊急通行車両等の通行が妨げられる。 ・閉塞の程度によっては、人の避難が妨げられる。
消火活動への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・道路閉塞により、消防自動車が行き止まりになるなどにより延焼が拡大する。
救命・救急活動の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・救急自動車の通行が困難となることなどにより、負傷者等の医療機関への搬送が遅れ、人的被害が拡大する。

概ね1日後～数日後	
道路閉塞に伴う緊急車両の通行路の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・道路啓開の実施により、徐々に緊急通行車両等の通行が可能となる。

区分	項目
⑦その他の被害	道路上の自動車への落石・崩土

■被害様相

地震発生直後	
道路上の自動車への落石・崩土による巻き込まれ	<ul style="list-style-type: none"> ・走行中の自動車が、地震による落石や崩土に巻き込まれ、死傷者等が発生する。
救命・救急、復旧作業のための人的・物的資源	<ul style="list-style-type: none"> ・落石や崩土に巻き込まれた被災者を発見・救助するための赤外線探知機等の機材が必要となる。 ・危険な場所での作業となるため、レスキュー部隊等の特殊な人的資源が必要となる。 ・土砂の崩壊を避けるための適切な指示を行う専門家等の派遣が必要となる。
二次災害の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・救出・救助作業中の余震等により、落石や崩土等が再度発生し、被災者や救助部隊等が二次被災する。
深層崩壊の危険	<ul style="list-style-type: none"> ・北部の耳川上流などでは、揺れによって深層崩壊が引き起こされ、自動車などが巻き込まれる可能性があるが、規模が大きいため、その実態の把握には時間を要することになる。

概ね1日後～数日後	
孤立集落の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路上に崩土が堆積した場合、その奥の住民が孤立する可能性があるが、実態把握に時間を要し、また道路啓開までの復旧作業人員の確保も必要となる。救援物資を人力またはヘリコプター等で投入する必要がある。

区分	項目
⑦その他の被害	交通人的被害（道路）

■被害様相

地震発生直後	
ドライバーの運転ミスによる交通事故	・揺れに驚いたドライバーがハンドル操作を誤り、交通事故が発生する。
橋梁の落橋・倒壊に伴う事故	・揺れによって橋梁が落下または倒壊し、反応が遅れたドライバーが巻き込まれる。
道路への落石、斜面崩壊、道路の陥没等による交通事故	・揺れによって落石、斜面崩壊、道路の陥没等が発生し、反応が遅れたドライバーが道路上の障害物を避けきれず、交通事故が発生する。
運転中に津波に巻き込まれる	・道路上を走行中（または避難中）に津波に巻き込まれる。 ・渋滞によって車両の走行が困難な状況の中、車の中に取り残され、津波に巻き込まれる。
交通施設が機能停止することによる交通事故	・信号機や道路照明が停電等で機能停止し、ドライバーの混乱により交通事故が発生する。
道路渋滞による緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の遅れによる症状悪化	・倒壊した建物や落下物等による道路閉塞、交通事故の発生等により、緊急搬送車両（医師や負傷者の搬送等）の通行の支障となり、二次的な人的被害が発生する。
地下トンネルや地下駐車場の浸水による人的被害	・鉄道のアンダーパス、地下道や地下駐車場が津波浸水することにより人的被害が発生する。
自動車の落下事故等による道路周辺の住民の人的被害	・自動車の高架橋からの落下事故等が発生し、道路周辺の地域の住民に人的被害が発生する。

区分	項目
⑦その他の被害	交通人的被害（鉄道）

■被害様相

地震発生直後	
運行中の揺れによる脱線・衝突事故	・揺れによって脱線・衝突事故が発生し、人的被害が発生する。
運行中の列車が津波にのみ込まれる	・走行中の列車は大きな揺れや津波警報を受けて停止するが、乗客の避難が遅れて津波に巻き込まれる。
急停車等の措置に伴う人的被害	・揺れを感知して急停車することにより、乗客の中にけが人等が発生する。
列車からの避難中のけが	・乗客が列車から避難する際に軌道上等の避難ルートでけがをする。
車両の脱線・落下事故等による線路周辺の住民の人的被害	・列車の脱線や高架からの落下事故等が発生し、線路周辺の地域の住民に人的被害が発生する。

概ね1日後～数日後	
孤立車両の発生	・路線上前後が崩落・冠水等で人の通行も不能となり、外部から近づくことも困難な急峻地等に車両が立ち止まり、車両内避難者が発生。食料等も少なくなる中、救出がはかどらない可能性がある。

⑦その他の被害

要配慮者（日向灘北部地震）

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
			避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
宮崎市	0	約2,700	約1,600	約1,100	約5,500	約2,800	約2,800	約3,400	約1,000	約2,400
都城市	0	約70	約40	約30	約180	約90	約90	約70	約20	約50
延岡市	0	約4,600	約2,800	約1,800	約7,300	約3,800	約3,500	約6,300	約1,900	約4,400
日南市	0	約910	約570	約340	約820	約430	約390	約640	約190	約450
小林市	0	約50	約30	約20	約90	約50	約50	約50	約20	約40
日向市	0	約2,500	約1,600	約950	約3,500	約1,900	約1,600	約3,200	約970	約2,300
串間市	0	約30	約20	約10	約50	約30	約30	約20	約10	約20
西都市	0	約600	約360	約240	約1,400	約680	約680	約1,000	約310	約730
えびの市	0	約80	約50	約30	約110	約50	約50	約80	約20	約60
三股町	0	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
高原町	0	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
国富町	0	約40	約30	約20	約190	約100	約100	約80	約20	約60
綾町	0	約10	-	-	約60	約30	約30	約20	約10	約10
高鍋町	0	約440	約260	約180	約1,000	約510	約510	約810	約240	約570
新富町	0	約170	約100	約70	約560	約280	約280	約400	約120	約280
西米良村	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	0	約90	約50	約40	約210	約110	約110	約190	約60	約130
川南町	0	約240	約140	約90	約720	約360	約360	約490	約150	約350
都農町	0	約300	約180	約120	約550	約280	約270	約470	約140	約330
門川町	0	約1,100	約700	約410	約1,300	約710	約550	約1,100	約340	約790
諸塚村	0	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
椎葉村	0	-	-	-	約30	約10	約10	約10	-	約10
美郷町	0	約20	約10	約10	約20	約10	約10	約20	約10	約10
高千穂町	0	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
日之影町	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	0	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
合計	0	約14,000	約8,600	約5,400	約24,000	約12,000	約11,000	約18,000	約5,500	約13,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

⑦その他の被害

要配慮者（日向灘南部地震）

市町村	人口 (人)	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
		避難者 (人)	避難所		避難者 (人)	避難所		避難者 (人)	避難所	
			避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
宮崎市	0	約8,500	約5,100	約3,400	約17,000	約8,800	約8,700	約14,000	約4,300	約10,000
都城市	0	約310	約190	約130	約1,100	約570	約570	約410	約120	約280
延岡市	0	約1,500	約900	約580	約2,000	約1,000	約990	約1,400	約420	約980
日南市	0	約2,900	約1,800	約1,100	約4,400	約2,300	約2,100	約3,900	約1,200	約2,700
小林市	0	約110	約70	約50	約260	約130	約130	約120	約40	約90
日向市	0	約810	約500	約310	約1,300	約680	約650	約880	約260	約610
串間市	0	約190	約110	約70	約510	約260	約250	約320	約100	約220
西都市	0	約660	約400	約260	約1,500	約750	約750	約1,200	約360	約830
えびの市	0	約100	約60	約40	約150	約80	約80	約100	約30	約70
三股町	0	約50	約30	約20	約220	約110	約110	約80	約20	約50
高原町	0	約10	-	-	約40	約20	約20	約10	-	約10
国富町	0	約110	約60	約40	約420	約210	約210	約250	約80	約180
綾町	0	約40	約20	約20	約170	約80	約80	約100	約30	約70
高鍋町	0	約450	約270	約180	約1,000	約520	約520	約820	約250	約570
新富町	0	約300	約180	約120	約750	約370	約370	約660	約200	約460
西米良村	0	-	-	-	約10	-	-	-	-	-
木城町	0	約90	約50	約30	約210	約100	約100	約180	約50	約120
川南町	0	約280	約170	約110	約780	約390	約380	約550	約160	約380
都農町	0	約110	約60	約40	約280	約140	約140	約190	約60	約130
門川町	0	約360	約220	約140	約490	約250	約250	約360	約110	約260
諸塚村	0	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
椎葉村	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	0	約10	約10	約10	約180	約90	約90	約100	約30	約70
高千穂町	0	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
日之影町	0	-	-	-	約20	約10	約10	-	-	-
五ヶ瀬町	0	-	-	-	約10	約10	約10	-	-	-
合計	0	約17,000	約10,000	約6,700	約33,000	約17,000	約16,000	約26,000	約7,800	約18,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

⑦その他の被害

避難所の要配慮者（日向灘北部地震）

（ 1週間後の避難所避難者に占める人数 ）

市町村	65歳以上の単身高齢者 (人)	5歳未満の乳幼児 (人)	身体障害者 (人)	知的障害者 (人)	精神障害者 (人)	要介護認定者 (要支援者を除く) (人)	難病患者 (人)	妊産婦 (人)	外国人 (人)
宮崎市	800	620	670	110	90	470	120	130	70
都城市	30	20	20	0	0	20	0	0	0
延岡市	1,500	670	950	20	0	800	130	130	40
日南市	200	50	100	20	10	80	10	10	10
小海市	20	10	10	0	0	10	0	0	0
日向市	490	400	530	110	70	330	80	80	40
串間市	10	0	10	0	0	10	0	0	0
西都市	270	90	160	30	10	130	20	20	10
えびの市	20	10	20	0	0	10	0	0	0
三股町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国富町	40	10	20	0	0	20	0	0	0
綾町	0	10	10	0	0	10	0	0	0
高鍋町	220	100	120	20	10	70	20	20	10
新富町	80	70	80	10	10	50	10	10	10
西米良村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
木城町	50	30	40	0	0	30	0	10	0
川南町	150	50	80	20	10	50	10	10	10
都農町	110	50	90	10	10	60	10	10	0
門川町	180	140	200	40	30	110	30	30	10
諸塚村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
椎葉村	10	0	0	0	0	0	0	0	0
美郷町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高千穂町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日之影町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,200	2,300	3,100	420	250	2,300	450	470	230

－ ：わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

⑦その他の被害

避難所の要配慮者（日向灘南部地震）

（ 1週間後の避難所避難者に占める人数 ）

市町村	65歳以上の単身高齢者（人）	5歳未満の乳幼児（人）	身体障害者（人）	知的障害者（人）	精神障害者（人）	要介護認定者（要支援者を除く）（人）	難病患者（人）	妊産婦（人）	外国人（人）
宮崎市	約2,600	約2,000	約2,100	約360	約280	約1,500	約370	約410	約230
都城市	約170	約110	約150	約30	約10	約110	約20	約20	約20
延岡市	約400	約180	約250	約10	-	約210	約30	約40	約10
日南市	約1,000	約290	約550	約110	約40	約420	約70	約50	約60
小林市	約60	約20	約30	約10	約10	約20	-	-	-
日向市	約180	約140	約190	約40	約20	約120	約30	約30	約20
串間市	約110	約30	約70	約10	-	約50	約10	約10	-
西都市	約290	約100	約180	約30	約10	約140	約30	約20	約10
えびの市	約30	約10	約20	-	-	約20	-	-	-
三股町	約40	約30	約30	-	-	約20	-	-	-
高原町	約10	-	約10	-	-	-	-	-	-
国富町	約80	約30	約50	約10	-	約40	約10	-	約10
綾町	約10	約20	約20	-	-	約20	-	-	-
高鍋町	約230	約100	約120	約20	約10	約70	約20	約20	約10
新富町	約110	約90	約100	約20	約10	約60	約20	約20	約10
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約40	約30	約40	-	-	約30	-	約10	-
川南町	約160	約60	約90	約20	約10	約60	約10	約10	約10
都農町	約60	約30	約40	約10	-	約30	約10	約10	-
門川町	約60	約50	約70	約10	約10	約40	約10	約10	-
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	約30	約10	約30	-	-	約20	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約5,700	約3,300	約4,200	約700	約440	約3,000	約640	約670	約400

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 属性間での重複があります。

区分	項目
⑦その他の被害	震災関連死

■被害様相

地震発生直後	
津波による低体温症	・津波に巻き込まれ、水に濡れた状態で低体温症となり死亡する。
日常的な治療が困難となることによる死亡	<ul style="list-style-type: none"> ・人工心臓や生命維持装置の電気を必要とする医療器具が、停電により停止し死亡する。 ・人工呼吸器の酸素ボンベが備蓄されておらず、吸引患者が死亡する。 ・地震発生直後の病院の被害、停電・断水等ライフライン被害が継続し、人工透析ができずに患者が死亡する。

概ね1日後～数日後	
避難所等の劣悪な生活環境による心身の健康被害	<ul style="list-style-type: none"> ・車中避難のように狭い場所で生活を続けた結果、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）を発症し死亡する。 ・高齢者等が、トイレに行く回数を減らすために水分を取らず、脱水症状等により死亡する。 ・多数の避難者が共同生活を送る中で、インフルエンザが蔓延し、重症化して死亡する。 ・避難所生活等の強いストレスから、慢性的な疾患の悪化等により死亡する。 ・医薬品が不足し、常用薬を必要とする有病者の体調が悪化し死亡する。 ・プライバシーが保てないことを嫌い自宅に戻り、避難所であれば受けられる支援が受けられず、また、体調の変化に気付かれずに、人知れず死亡する。
遠距離の避難・移動中に死亡	・入院患者や、寝たきりの高齢者等が、津波の浸水地域や、ライフラインが途絶した地域から、バス等により長時間の避難をせざるを得なくなり、移動中に病状が悪化し死亡する。
猛暑による熱中症	・夏季の避難所での生活や、炎天下での救助・救出、がれき撤去等の作業中に熱中症となり死亡する。

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
精神的ストレスに伴う疾患や自殺等	・家族や仕事を失う等の大きな精神的ストレスから、アルコール摂取量が増え健康を害する、悲観的になり自殺を図る等により死亡する。
災害応急対策活動に伴う過労	・行政職員やボランティア、避難所運営にあたった住民等が、過酷な災害応急対策業務により過労死または精神的ストレスによる自殺等を図り、死亡する。
生活環境の変化に伴う死亡	・生活不活発等により健康を害し、死亡する避難者や在宅者が発生する。

区分	項目
⑦その他の被害	宅地造成地

■被害様相

地震発生直後	
・建物被害	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎市をはじめ、台地などを切ったり、盛ったりすることで造成された大規模宅地が多く存在する。地震時には切盛境界などで地盤変状が発生し、宅地造成地が崩壊することにより建物被害が発生する。 ・全半壊に至らない建物についても、地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により居住が困難となる。
・ライフライン途絶	<ul style="list-style-type: none"> ・造成地の地下の上下水道管やガス管、地上の電柱・電線類は、切盛境界の変異などの被害により、全半壊を免れた住宅であっても、ライフラインが機能せず、避難を余儀なくされる。

概ね1日後～数日後	
二次災害の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・崩壊した地盤が、降雨等によって再度崩れ、建物被害や人的被害が拡大する。
交通困難	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地造成地が崩壊する地域では、道路が途絶・陥没し自宅外への移動が困難となるほか、近隣の避難所等への物資の輸送、また復旧のための車両等の移動が妨げられ、復旧が遅れる。

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
住民の生活不安	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の被害が比較的軽微であっても、地盤が崩壊しているために所有者が別の場所への建て替えを希望するが、復旧費用の十分な補助が得られず復旧が困難となる。 ・建物の被害が軽微である場合でも、ライフラインや道路の途絶、また軽微な傾斜によって健康不安となる等、所有者にとっては大きな生活上の不便や不安が生じる。 ・上記のように、自宅での生活が不便を強いられる一方で、再建方針が定まらず避難所等での生活が長期化する。

区分	項目
⑦その他の被害	危険物施設

■被害様相

地震発生直後	
施設の被害	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県には法律で指定されているようなコンビナートはないが、北部地域には、わが国有数の化学メーカーがあり、原材料などの多くをタンクなどで保管している。地震や津波の影響が大きい場合には、タンクや配管等の火災、流出等の被害が発生する。 大規模なタンク等は、おおむね耐震対策等が完了しており、既知の地震動による流出の危険性は極めて低いと考えられる。 長周期地震動の影響が大きい場合には、タンク等が振動するスロッシングによる被害が発生する。
周辺への影響	<ul style="list-style-type: none"> タンクの火災は、当該タンクに限定される場合が多く、その場合には輻射熱の周辺への影響は小さい。 毒性ガスや可燃性ガスが大量に漏洩した場合には、区域を越えて周辺に影響が及ぶ。

概ね1日後～数日後	
復旧	<ul style="list-style-type: none"> タンク被害等に被害が限定される場合には、他のタンクを利用する等の代替措置により、早い段階から機能継続が図られる。

概ね1か月後	
事業再開の困難	<ul style="list-style-type: none"> 地震被害の範囲が大きい場合には点検及び修復に相当の期間を要する。 浸水の影響が大きい場合には、浸水した機器の復旧等のために、事業再開に相当の期間を要する。 雇用の多くを県内数社の大手メーカーに依存しているため、事業再開の遅れは、県内経済に大きな打撃を与える。

区分	項目
⑦その他の被害	大規模集客施設等

■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	<ul style="list-style-type: none"> ・強い揺れに伴い建物が全半壊する。 ・耐震性を有する建物でも傾斜等により中長期にわたって利用できなくなるものが発生する。
揺れによる非構造部材の被害	<ul style="list-style-type: none"> ・天井のパネル、壁面、ガラス、商品、棚、吊りモノ等の非構造部材等が落下する。
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。
津波による建物被害(浸水)、機能支障	<ul style="list-style-type: none"> ・低層階や地下階が津波によって浸水することにより、中長期の機能支障、営業停止となる。 ・非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。
津波による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・津波による浸水被害が発生する。施設管理者から利用者に向けての津波警報伝達や避難誘導が遅れば、利用者が逃げ遅れることにより、多くの人的被害が発生する。 ・津波避難ビルに指定されている大規模集客施設でも、避難誘導等が円滑になされず、指定階以上の階数への避難が遅れば、利用者あるいは周辺から避難してきた多くの人々が津波に巻き込まれる。
エレベータ閉じ込め	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模集客施設はエレベータ等が多く設置されている場合が多く、また営業中であれば搭乗率も高いことから、地震の揺れによりエレベータの閉じ込め事案が多数発生する。
エスカレーターにおける人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・エスカレーター等が多く設置されている大規模集客施設で転倒事故等が発生する。
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。 ・火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。
ガス爆発、火災による人的被害	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。 ・施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、より被害が拡大する。
利用者等の滞留	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない。 ・人口密集地に立地する施設、地域の拠点となる施設等については、地震や津波の発生により周辺の住民が避難してくる。
利用者等の混乱、パニック	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。 ・高層ビル等の場合は心理面でパニックが助長される。

	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑状況が激しい場合、集団転倒などにより人的被害が発生する。
スポーツ団体のキャンプ時における混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県は晴天率の高さや、温暖な気候のため、春と秋に多くのスポーツ団体がキャンプを行い、他県から多くの観光客が訪れ、地理に不慣れな人々が団体にいることにより、避難時に困難が生じる。
外国人観光客・来場者の混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語のわからない外国人観光客や外国人来場者への情報伝達が不十分のため、避難時に困難が生じる。

区分	項目
⑦その他の被害	宮崎駅等

■被害様相

地震発生直後	
揺れによる構造物被害	・耐震性を有する建物も地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により中長期にわたって利用できなくなると考えられる。
揺れによる非構造部材の被害	・天井のパネル、壁面、ガラス、吊りモノ等が落下する。
構造物及び非構造部材の被害による人的被害	・揺れによる非構造部材の被害により施設利用者が死傷する。
津波による建物被害(浸水)、機能支障	<p>→宮崎駅自体は浸水エリアの外と予測されているが、周辺の多くは水につかる。駅周辺のオープンスペースに、多くの避難者などが集まることが想定される。</p> <p>・浸水エリア駅等においても、非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水によってそれらが使用できなくなるため、停電状況下では施設運営が困難となる。</p>
停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等の発生	<p>・施設内において、停電、水漏れ、ガス漏洩、火災等が発生する。</p> <p>・火災によるスプリンクラー稼働により、店舗の商品等が被害を受ける。</p>
ガス爆発、火災による人的被害	<p>・ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災に拡大し、多くの人的被害が発生する。</p> <p>・施設管理者から利用者に対して適切な避難誘導がなされなければ、被害が一層拡大する。</p> <p>・地震による停電状況下において、放送設備等が使えない状況も想定される。</p>
利用者等の滞留	<p>・宮崎県内の鉄道利用者は一日平均 2.3 万人（平成 22 年度）、そのうち日豊本線が 1.9 万人とほぼ大半を占め、最大の宮崎駅で 0.4 万人、次いで南宮崎駅で 0.2 万人である。駅には周辺地区から鉄道利用者等が押し寄せる。</p> <p>・周辺の被害状況、交通機関の被害状況によっては、多くの利用者が円滑に脱出・帰宅できない状況が発生する。</p> <p>→宮崎駅などは高架化されているために、津波の発生により周辺の住民が避難してくる。</p>
利用者等の混乱、パニック	・多くの利用者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する。

⑦その他の被害

文化財（日向灘北部地震）
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	8	0	0	0
都城市	3	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	0	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	0	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	1	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	20	2	0	0

(注1) 重要文化財の件数は、宮崎県教育委員会文化財課「みやざき文化財情報」に掲載されている、国指定重要文化財 20 件（美術工芸品 11 件、建造物 9 件）（平成 30 年 10 月 31 日指定分まで）を対象としています。

⑦その他の被害

文化財（日向灘南部地震）
（被災可能性のある重要文化財）

市町村	総数 (施設)	要因別内訳(施設)		
		揺れ	火災	津波浸水
宮崎市	8	1	0	0
都城市	3	0	0	0
延岡市	0	0	0	0
日南市	0	0	0	0
小林市	0	0	0	0
日向市	0	0	0	0
串間市	1	0	0	0
西都市	1	1	0	0
えびの市	1	0	0	0
三股町	0	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	1	0	0	0
綾町	0	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	0	0	0	0
木城町	0	0	0	0
川南町	0	0	0	0
都農町	1	0	0	0
門川町	0	0	0	0
諸塚村	0	0	0	0
椎葉村	1	0	0	0
美郷町	1	0	0	0
高千穂町	2	0	0	0
日之影町	0	0	0	0
五ヶ瀬町	0	0	0	0
合計	20	2	0	0

(注1) 重要文化財の件数は、宮崎県教育委員会文化財課「みやざき文化財情報」に掲載されている、国指定重要文化財 20 件（美術工芸品 11 件、建造物 9 件）（平成 30 年 10 月 31 日指定分まで）を対象としています。

⑦その他の被害

孤立集落（日向灘北部地震）
（ 孤立可能性のある集落数 ）

市町村	総数 (箇所)	農業集落 (箇所)	漁業集落 (箇所)	計 (箇所)
宮崎市	19	0	0	0
都城市	19	0	0	0
延岡市	49	0	7	7
日南市	21	0	0	0
小林市	4	0	0	0
日向市	17	0	4	4
串間市	17	0	0	0
西都市	16	0	0	0
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	0	0	0
川南町	1	0	0	0
都農町	5	0	0	0
門川町	2	0	0	0
諸塚村	31	0	0	0
椎葉村	62	0	0	0
美郷町	51	0	0	0
高千穂町	94	0	0	0
日之影町	70	0	0	0
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	577	0	11	11

(注1) 孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成26年」において、孤立可能性があると考えられた集落を対象としています。

⑦その他の被害

孤立集落（日向灘南部地震）
（ 孤立可能性のある集落数 ）

市町村	総数 (箇所)	農業集落 (箇所)	漁業集落 (箇所)	計 (箇所)
宮崎市	19	3	6	9
都城市	19	0	0	0
延岡市	49	0	2	2
日南市	21	1	3	4
小林市	4	0	0	0
日向市	17	0	0	0
串間市	17	0	0	0
西都市	16	1	0	1
えびの市	5	0	0	0
三股町	6	0	0	0
高原町	0	0	0	0
国富町	0	0	0	0
綾町	6	0	0	0
高鍋町	0	0	0	0
新富町	0	0	0	0
西米良村	15	0	0	0
木城町	9	0	0	0
川南町	1	0	0	0
都農町	5	0	0	0
門川町	2	0	0	0
諸塚村	31	0	0	0
椎葉村	62	0	0	0
美郷町	51	0	0	0
高千穂町	94	0	0	0
日之影町	70	0	0	0
五ヶ瀬町	58	0	0	0
合計	577	5	11	16

(注1) 孤立集落の箇所数は、「中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況フォローアップ調査 内閣府平成26年」において、孤立可能性があるとされた集落を対象としています。

区分	項目
⑦その他の被害	災害応急対策等

■被害様相

地震発生直後	
電源の喪失による業務の混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用電源が確保できないことにより、電話等による通信ができなくなるほか、庁舎内ネットワークがダウンし、各種証明書の発行や情報発信ができなくなるなど、業務が大混乱する。
通信途絶による災害応急対策の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・被害情報収集、情報伝達、他市町村との情報交換ができなくなる。 ・連絡システムの不具合により住民等への適切な情報伝達等の初動対応が困難となる。 ・災害情報の収集・整理がままならず、適切な対応ができない。 ・発災直後から各機関・マスコミのヘリコプターなどが活用されるが、被害の全体像の把握に時間を要するなど、効率的な情報共有ができない。
職員の被災	<ul style="list-style-type: none"> ・初動期に情報収集を行うべき自治体職員の多くが被災し、正確な情報を早期に収集することができない。 ・知事、幹部職員等の被災による指揮命令権者の不在により、災害対応や平常時業務が混乱する。 ・日中に地震が発生した場合、職員の家族の安否確認にも支障が生じ、不安を抱えたままの業務遂行で、著しく効率が低下することが考えられる。
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数が不足する。
避難所設置の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の被災や道路の途絶、避難所自体の被災により避難所の設置・運営ができなくなる。
指定避難所外での避難	<ul style="list-style-type: none"> ・指定避難所以外の所に自主的に避難する住民もいるが、その状況把握ができない。

概ね数日後	
人的・物的資源の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・膨大な量の災害応急対策業務に対して国・自治体の職員や資機材の絶対数の不足が継続する。 ・インフラやライフラインの応急復旧が進まず、被災者支援が十分になされない。

区分	項目
⑦その他の被害	堰堤、ため池等の決壊

■被害様相

地震発生直後	
古い堰堤、ため池等の決壊	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと風水害に弱い火山灰特殊土壌に覆われるなど災害が発生しやすい条件であり、老朽化したため池を筆頭に、地震時決壊する可能性が高い。 ・破堤に伴いため池の下流側の集落へ氾濫水が流下し、集落の一部が浸水する。 ・ため池の下流側の水田や畑地などが浸水し、農作物が浸水によって流出する。 ・多量の氾濫水とともに周辺の樹木や土砂など流下し、それらに巻き込まれて死傷者が発生する。

概ね1日後～数日後	
浸水による被害	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水した集落では、家屋の一部が損傷するなど地震による被害に加えて浸水による被害についても対応する必要がある。
災害廃棄物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫水が床上まで浸水した家屋では、家具等が使用できなくなる。また、床下浸水があった家屋でも土砂が多量に堆積することから、それらの処理が必要となる。
二次災害の不安	<ul style="list-style-type: none"> ・地震後の降雨で、さらに浸水や土砂が下流に流下し、被害が拡大する。

区分	項目
⑦その他の被害	地盤沈下による長期湛水

■被害様相

概ね数日後～	
避難所の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者が増加する一方で、利用可能な避難所数が減少し、避難スペースの不足や被災地外への広域避難を余儀なくされる。 →津波避難ビルや高層マンションで自宅に留まる等して一時的に避難したが、長期湛水のため孤立化し、被災地外への広域避難を余儀なくされる。
被災地内の移動困難に伴う災害応急対策及び日常生活の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県沿岸で 0.2m の地殻変動による地盤沈下が生じており、多くの地域が満潮時には海水面以下になる恐れがある。 →湛水エリアが通行できないことによる避難所等への物資配送が困難となる。 ・自宅等で生活可能な人々が、湛水エリアを通行できないことにより日常生活上で様々な不便が発生する。
災害応急対策の活動拠点の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・応援部隊、ライフライン・インフラ等の復旧部隊の駐留場所や資材置き場、がれき仮置き場等のオープンスペースが不足する。 ・代替え地の確保（事前に候補地を決めておく）が必要となる。

概ね 1 か月後～ ※1 年後以降も同様	
復旧作業の困難	<ul style="list-style-type: none"> ・埋設管、電柱等の復旧ができず仮復旧が遅れる。 ・湛水エリアにおける排水・土地の嵩上げ・防潮堤の新設等、インフラや建物建設を開始する前の基盤整備が必要となり、復旧作業の長期化、作業人員の不足、膨大なコスト等の問題が発生する。 ・居住不可能となった湛水エリアの居住者が移転可能な場所の確保が困難となる。 ・宮崎市南部の沿岸地域は、1662 年外所地震によって水面下に沈んだ集落があったところであり、再び沈下すると南北の交通路が使えなくなり、復旧に支障をきたす恐れがある。

区分	項目
⑦その他の被害	複合災害

■被害様相

地震発生直後	
複数の自然災害の同時発生による被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害等による避難中に地震が発生した場合、避難所の倒壊や屋内落下物等により人的被害が拡大する。 ・堤防や護岸、砂防ダム等が揺れ・液状化・津波により機能低下し、台風や集中豪雨による洪水や高潮等を防ぎきれず、建物被害や死傷者が増加する。 ・地震発生時に悪天候であった場合、自宅外への避難行動が遅れ、津波による死傷者が増加する。 ・地震により弱体化していた建物が暴風により全壊するなど、大きな被害が発生する。 ・激しい揺れにより崩壊、または緩んでいた斜面や宅地造成地が、大雨により崩壊する。 ・地震と風水害が重なると、深層崩壊など、斜面や地盤の崩壊が起りやすくなり、孤立する集落が多く発生する。 ・山間部では、深層崩壊の危険性が高い地域があり、河道閉塞が発生し、上流からの水がせき止められ、せき止め湖（天然ダム）が発生し、崩壊により下流域へ水が一気に押し寄せるリスクが高まる。 ・地震により火山噴火が誘発された場合、火山周辺で避難指示区域が設定され、避難者数が更に増加する。
対応の混乱	<ul style="list-style-type: none"> ・人的・物的資源や活動場所の確保等において、災害対策本部等の対応体制（地震対応か台風対応か）が混乱する。 ・災害応急対策の活動拠点や避難所等が地震による揺れや津波などで被災しなかった場合でも、風水害や火山災害等が重なれば拠点確保が困難となる。 ・悪天候により、地震・津波の死者・行方不明者の捜索が困難となる。 ・波浪・高潮・暴風・冠水等により、道路交通や空港・港湾等の利用が制限され、被災地内での人員・車両・重機等の移動、また被災地外からの応援が困難となり救急・救助活動が遅れる。 ・地震発生後に火山が噴火すると、降灰により、道路の移動困難や救助・救急、地震で発生したがれき撤去作業が困難となる。 ・悪天候や降灰により、地震で発生した膨大な数の負傷者等の車両による搬送の遅れ、ヘリコプターによる移動・搬送が困難となる。

概ね数日後～	
繰り返し避難することによる心身の疲労・ストレス	<ul style="list-style-type: none"> ・先に発生した災害で避難した避難所の避難者や、その後に入居した仮設住宅等にいる被災者が、別の災害によって再度別の場所に避難することになると、被災者の心身の疲労・ストレスの増大、健康被害の発生につながる。
長期避難指示による生活再建の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・火山噴火にともなう避難指示が出された場合、終息あるいは静穏化による指示解除まで住民が戻れない等、生活再建の困難度が相乗的に増加する。

概ね1か月後～ ※1年後以降も同様	
<p>広域・長期間に及ぶ電力供給不足による災害応急対策、復旧活動の困難</p>	<ul style="list-style-type: none"> 九州地域も大きな揺れに見舞われることで、原子力発電所の安全確認に時間を要したり、別府湾沿岸の火力発電所などが、揺れ・液状化・津波等により広範囲で同時に電力供給停止する。さらに、濁水が重なることで水力発電による電力供給量が減少し、内陸部及び被災地外からの電力の融通ができず停電が長期化する。

区分	項目
⑦その他の被害	時間差での地震の発生

■被害様相

最初の地震発生直後に次ぎの地震発生	
強震動が時間遅れで発生することによる建物被害・人的被害の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の地震により脆弱化した建物が、後発の地震により倒壊する。 ・建物等の下敷きとなった要救助者が後発の地震による建物等の倒壊で圧死する。 ・新たな倒壊家屋からの出火により延焼範囲が拡大する。 ・急傾斜地、宅地造成地などで、先の地震により地盤が緩み、後発の地震により崩壊する。
津波の重なりによる津波高の増幅効果	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の地震に伴う津波が継続しているときに後発地震が発生した場合には、津波が重なり合うことで津波の高さが増幅する。
防災施設の脆弱化に伴う被害拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の地震・津波により海岸・河川堤防が破損した地域では、後発の地震に伴う津波の被害が大きくなる。

最初の地震発生後概ね数日後以降に次ぎの地震発生	
災害応急対策時の二次災害等、活動支障の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・救助・捜索等の活動中に、建物の倒壊、津波、急傾斜地の崩壊によって二次災害が発生する。
他地域へ応援活動時の被災(災害応急対策の体制が手薄)	<ul style="list-style-type: none"> ・二度目の地震で大きな被害が出た地域において、最初に発生した地震対応の応援活動が行われていたために、救助・救急活動や消火活動等に必要となる人員・資機材等の資源が十分に確保できない。
被害の広域化、被災地外への影響の波及	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に発生した地震対応のために、全国的に物資等が調達・消費されており、救命・救急に必要な医薬品、避難生活等に必要となる水・食料や生活必需品等が不足する。
時間差発生に対する社会的な不安の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店から一部の食料・物資等が買い占め等により購入が困難となるほか、燃料不足への懸念から、給油待ちの車両が長蛇の列を作る事態が発生する。
復旧計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・一旦開始した復旧作業について、二度目の地震により新たな被害地域が発生する等、被害状況に応じて復旧計画の見直しをする必要が生じ、仮復旧までの時間がさらに延びることとなる。

最初の地震発生後概ね1か月後以降に次ぎの地震発生	
時間差発生に対する社会的な不安の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性の確保されていない建物に対する不安等により店舗や集客施設等への来客が減少する、津波が来るおそれのある臨海部については業務の場所を制限する等の対策により業務効率が落ちる、地域外からの観光客の減少や、被災地での事業展開(企業の進出等)が控えられる等、社会的不安が増大する。

復旧、復興作業中の被害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・道路・橋梁、港湾等の社会基盤、ライフラインの仮復旧作業中に揺れや津波等によって再度、これらの設備が被害を受ける。 ・再建中の施設が破壊されることにより、がれき量が更に増加し、仮置き場の確保や最終処理が困難になる。
多数の支援者の被災	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や消防・警察・自衛隊等の応援部隊や、社会基盤・ライフラインの復旧作業員、被災者支援のNPO・ボランティア等、被災地で大量の人員が日常的に活動していることが予想される。これらの人々が、活動場所で被災し、揺れによる建物被害や津波等に巻き込まれて死傷する。
社会経済機能の復旧の遅延	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に発生した地震から仮復旧・再開していた仮設店舗、市場等が再度被災する。 ・最初に発生した地震では被害を免れていた農業や漁業（養殖）業が、別の災害によって被災し、地域の産業が全般的に停滞する。

最初の地震発生後概ね1年後以降に次ぎの地震発生	
復興、生活再建中の被災	<ul style="list-style-type: none"> ・応急仮設住宅（借り上げ型仮設住宅も含む）や復興住宅等での仮住まいや、再就職等の生活再建が進みつつある際に地震が発生することにより、被災者がふたたび立ち直るだけの財力・気力を保つことが困難になる。
オープンスペース等の確保困難	<ul style="list-style-type: none"> ・確保可能なオープンスペースに、復興住宅や応急仮設住宅、及びがれきの仮置き場等が既に立ち上がっており、二度目の地震による被災時に活用可能なオープンスペースが不足する。

区分	項目
⑦その他の被害	漁船・船舶、水産関連施設

■被害様相

地震発生直後	
漂流漁船・船舶、燃料、運搬物等の流出による陸上での被害の拡大	・津波被害が予想される地域には、漁船等に加え、港に出入りする大型の船舶や、危険物を輸送する船舶が存在しており、これらの船舶が市街地を漂流した場合、衝突等による人的・物的被害の拡大、危険物の流出・発火による延焼被害の拡大が発生する。
漁船、漁港、水産関連施設等の被災	・養殖業において設備の被害や養殖している魚介類の流失等の被害が発生する。

概ね数日後～	
漁船・船舶の撤去等の困難	・漁船等に加え大型の船舶が打ち上げられることで、交通の妨げとなり救助・救急活動や応急復旧作業が遅れる。 ・所有者が不明の船舶が多数陸上に打ち上げられ、解体・廃棄まで時間を要する。 ・打ち上げられた船舶を「災害遺構」として保存する動き等が発生し、解体・廃棄まで時間を要する。
腐敗・劣化した水産加工品・工業製品等の処分	・津波による被害のほか、強い揺れによってライフラインが途絶し、魚介類等の冷凍・冷蔵保存を伴う業務が広範囲でできなくなる。そのために腐敗した魚介類や水産加工品等が大量に発生し、処分する必要がある。 ・工業製品を出荷していた港湾が利用できなくなることで、港湾周辺に大量の工業製品等が滞留し、劣化して経済的な損失につながる。
漁港等の利用困難	・津波により漁港等が甚大な被害を受けることに加え、座礁・沈没した船舶や湾内の大量の漂流物により漁港の係船・陸揚げ機能が麻痺し、物資や応援の人員、復旧資機材等の輸送のための利用ができなくなる。

概ね1か月後～	
漁船等の被災による生活困難	・大津波が発生する地域では漁船、漁港及び沿岸部の市場・加工施設等が壊滅的な被害を受け、国内外への流通品が減少するとともに、多数の漁業関係者が収入を得られず生活が困難となる。
漁業再開の困難	・漁港等の被害等による係留・陸揚げ機能の麻痺が続き、漁業活動の再開が困難となる。
県内生産物の搬送手段の困難	・県内の農畜産物の搬出の多くを占めるフェリー施設の被災により、陸送による迂回搬送となるため、県内生産物の他地域への販路に支障が生じる。

区分	項目
⑦その他の被害	治安

■被害様相

概ね数日後～	
避難エリアにおける空き巣等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・店員等が避難して不在となった店舗で物品の盗難等の被害が発生する。 ・住民が避難して不在となった住宅への空き巣被害等が発生する。 ・工場や港湾等において、自動車等の製品や、燃料・資材等の盗難被害が発生する。
避難所等における盗難	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所等において、配給された救援物資、避難所施設の物品、避難者の持ち込んだ金品等の盗難が発生する。
暴行・傷害行為の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・物資が不足している避難所や、生活環境が劣悪な避難所等において、避難者同士または避難者と支援者（行政職員やボランティア等）の暴力事件が発生する。
悪質商法や義援金詐欺等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的被害の軽微だった地域を中心に、「時間差発生」等の説明を悪用して、家屋等の点検作業を働きかける悪質商法が発生する。 ・義援金詐欺による被害が被災地外で発生する。
デマ等の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・時間差によって数日後に更に大きな被害が発生するなど、不安を煽るデマ情報が発生し、被災者の混乱、疲労につながる。 ・工業地帯の火災や爆発等に関するデマ情報が発生する。 ・製造業・加工業が被災することで、全国的な物資の枯渇を示唆するデマ情報が発生する。 ・信憑性の低い段階で、霧島の噴火や、えびの・小林地震に関するデマ情報が発生する。

⑧経済被害

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	シナリオ	
		日向灘北部	日向灘南部
建物被害	建物被害額	0.8	1.0
	家財資産被害額	0.008	0.02
	事業所償却資産被害額	0.1	0.1
	事業所棚卸資産被害額	0.05	0.06
ライフライン・インフラ 施設被害	上水道被害額	0.01	0.01
	下水道被害額	0.05	0.08
	電気被害額	0.0007	0.0001
	通信被害額	0.003	0.003
	ガス被害額	0.002	0.002
	道路被害額	0.03	0.03
	鉄道被害額	0.009	0.01
	港湾被害額	0.04	0.04
	漁港被害額	0.04	0.04
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.05	0.06
土地の損壊・損失	農地被害額	0.02	0.02
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.07	0.08
計		1.3	1.6

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑧経済被害

生産・サービス低下による影響

(単位：億円)

産業	シナリオ	
	日向灘北部	日向灘南部
農林水産業	38	49
鉱業	2	2
建設業	118	135
食料品製造業	111	112
輸送機械製造業	30	30
その他製造業	232	235
電気・ガス・水道業	80	102
運輸・通信業	173	247
卸売・小売業	170	216
金融・保険業	211	322
不動産業	203	279
サービス業	3,447	3,493
合計	4,816	5,223

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑧経済被害

交通寸断による影響

(単位：億円)

項目		復旧完了までに要する期間	日向灘北部	日向灘南部
道路	人流	1ヵ月の場合	63	59
		6ヵ月の場合	256	429
	物流	1ヵ月の場合	1,763	1,003
		6ヵ月の場合	2,711	3,594
鉄道	人流	3日間の場合	0	0
		1ヵ月の場合	4	4
空港		3日間の場合	2	2
合計		道路が1ヵ月停止、 鉄道、空港が3日間 停止する場合	1,828	1,063
[参考] 港湾	物流	3日間の場合	0.4	0.1

(注1) 港湾機能停止による損失額は、コンテナ貨物は代替港湾に陸送し、バラ貨物は輸送を取りやめると仮定して推計しており、参考値として記載します。

(注2) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

全半壊棟数（日向灘北部地震 冬 18 時 現状耐震化率約 80%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,700	約9,200	約180	約2,500	約70	約160	-	約50	約20	約1,900	約12,000
都城市	約60	約300	-	約20	約30	約70	-	-	-	約80	約390
延岡市	約1,400	約5,600	約2,600	約7,200	約130	約240	約140	約750	約370	約4,600	約14,000
日南市	約520	約2,100	-	約50	約60	約130	約10	約200	-	約580	約2,500
小林市	約40	約230	-	約10	約10	約20	-	-	-	約40	約260
日向市	約420	約2,400	約1,800	約3,900	約30	約50	約120	約1,000	約100	約2,500	約7,400
串間市	約10	約60	-	-	約10	約30	-	約10	-	約30	約100
西都市	約190	約950	約370	約1,500	約10	約20	-	-	-	約560	約2,500
えびの市	約100	約650	-	約10	-	約10	-	-	-	約100	約670
三股町	-	-	-	-	約10	約10	-	-	-	約10	約20
高原町	-	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
国富町	約10	約50	約10	約230	約10	約30	-	-	-	約30	約310
綾町	-	約10	-	約50	-	約10	-	-	-	約10	約70
高鍋町	約100	約520	約360	約1,300	-	約10	-	-	約20	約480	約1,800
新富町	約20	約150	約160	約790	約10	約10	-	-	-	約190	約950
西米良村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約20	約110	約120	約370	-	約10	-	-	-	約150	約490
川南町	-	約20	約250	約1,300	-	約10	-	-	-	約260	約1,300
都農町	約10	約40	約330	約850	-	約10	-	約30	約20	約370	約930
門川町	約350	約1,600	約530	約1,200	約20	約30	約60	約330	約30	約990	約3,200
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	約110	約20	約30	-	-	-	約20	約150
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約4,900	約24,000	約6,700	約21,000	約440	約900	約340	約2,400	約570	約13,000	約49,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

全半壊棟数（日向灘北部地震 冬 18 時 耐震化率 90%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約510	約9,100	約80	約1,100	約70	約160	-	約60	約20	約690	約10,000
都城市	約10	約290	-	約10	約30	約70	-	-	-	約40	約360
延岡市	約360	約5,700	約950	約3,000	約140	約270	約170	約940	約340	約2,000	約10,000
日南市	約150	約2,200	-	約20	約60	約130	約10	約220	-	約210	約2,600
小林市	約10	約230	-	-	約10	約20	-	-	-	約20	約250
日向市	約120	約2,400	約810	約2,100	約30	約60	約170	約1,200	約90	約1,200	約5,700
串間市	-	約60	-	-	約10	約30	-	約10	-	約20	約100
西都市	約60	約930	約140	約600	約10	約20	-	-	-	約210	約1,500
えびの市	約30	約620	-	-	-	約10	-	-	-	約30	約630
三股町	-	-	-	-	約10	約10	-	-	-	約10	約20
高原町	-	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
国富町	-	約50	-	約80	約10	約30	-	-	-	約20	約150
綾町	-	約10	-	約20	-	約10	-	-	-	-	約40
高鍋町	約30	約510	約130	約550	-	約10	-	-	約20	約180	約1,100
新富町	-	約140	約60	約320	約10	約20	-	-	-	約80	約470
西米良村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約10	約110	約40	約150	-	約10	-	-	-	約50	約270
川南町	-	約20	約100	約520	-	約10	-	約10	-	約100	約550
都農町	-	約40	約120	約380	-	約10	約10	約40	約20	約150	約470
門川町	約100	約1,600	約200	約530	約20	約40	約70	約380	約30	約420	約2,500
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	約30	約20	約30	-	-	-	約20	約80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,400	約24,000	約2,600	約9,400	約450	約960	約420	約2,800	約520	約5,400	約37,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→急傾斜地崩壊→津波→火災焼失」の順で想定することとしました。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

⑨減災効果

全半壊棟数（日向灘南部地震 冬 18時 現状耐震化率約 80%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約1,800	約9,800	約4,500	約15,000	約70	約140	約140	約600	約1,200	約7,700	約25,000
都城市	約240	約1,300	約10	約930	約30	約70	-	-	-	約280	約2,300
延岡市	約1,200	約4,700	約10	約410	約140	約300	約10	約150	-	約1,300	約5,600
日南市	約660	約2,700	約1,800	約4,200	約70	約120	約30	約290	約150	約2,700	約7,300
小林市	約90	約550	-	約70	約10	約20	-	-	-	約100	約630
日向市	約410	約2,400	約110	約1,100	約30	約60	約10	約250	-	約550	約3,800
串間市	約50	約190	約100	約840	約20	約50	-	約10	-	約180	約1,100
西都市	約190	約950	約430	約1,600	約10	約20	-	-	約10	約630	約2,600
えびの市	約120	約800	-	約40	-	-	-	-	-	約120	約840
三股町	約30	約240	-	約170	約10	約10	-	-	-	約40	約420
高原町	約10	約30	-	約20	-	約10	-	-	-	約10	約60
国富町	約10	約50	約80	約610	約10	約20	-	-	-	約100	約690
綾町	-	約20	約40	約260	-	約10	-	-	-	約50	約290
高鍋町	約100	約520	約380	約1,400	-	約10	-	-	約20	約500	約1,900
新富町	約20	約150	約340	約1,000	約10	約10	-	-	約10	約370	約1,200
西米良村	-	-	-	約10	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約20	約110	約110	約370	-	約10	-	-	-	約140	約490
川南町	-	約20	約300	約1,400	-	約10	-	約10	-	約320	約1,400
都農町	約10	約40	約70	約470	-	約10	-	約20	約10	約90	約530
門川町	約340	約1,600	約10	約160	約20	約40	-	約30	-	約370	約1,800
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	約20	約10	約30	-	-	-	約20	約60
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約5,200	約26,000	約8,300	約30,000	約470	約970	約190	約1,400	約1,400	約16,000	約58,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化

全半壊棟数（日向灘南部地震 冬 18時 耐震化率 90%）

市町村	液状化		揺れ		急傾斜地崩壊		津波		火災	合計	
	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	焼失 (棟)	全壊・ 焼失 (棟)	半壊 (棟)
宮崎市	約540	約9,700	約2,100	約7,500	約70	約150	約180	約720	約1,200	約4,000	約18,000
都城市	約60	約1,200	-	約330	約30	約70	-	-	-	約100	約1,600
延岡市	約300	約4,800	-	約150	約140	約300	約10	約170	-	約450	約5,400
日南市	約190	約2,800	約710	約1,900	約70	約140	約40	約380	約140	約1,100	約5,200
小林市	約20	約540	-	約20	約10	約20	-	-	-	約30	約570
日向市	約120	約2,300	約50	約460	約30	約60	約10	約300	-	約200	約3,100
串間市	約10	約190	約40	約290	約20	約60	-	約10	-	約80	約550
西都市	約60	約930	約160	約660	約10	約20	-	-	-	約240	約1,600
えびの市	約40	約760	-	約20	-	-	-	-	-	約40	約780
三股町	約10	約220	-	約60	約10	約10	-	-	-	約20	約300
高原町	-	約30	-	約10	-	約10	-	-	-	-	約50
国富町	-	約50	約30	約220	約10	約30	-	-	-	約40	約290
綾町	-	約20	約10	約100	-	約10	-	-	-	約20	約120
高鍋町	約30	約510	約140	約580	-	約10	-	-	約20	約190	約1,100
新富町	-	約140	約130	約460	約10	約20	-	-	-	約150	約620
西米良村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
木城町	約10	約110	約40	約150	-	約10	-	-	-	約50	約260
川南町	-	約20	約110	約560	-	約10	-	約10	-	約130	約600
都農町	-	約40	約30	約170	-	約10	-	約20	約10	約40	約240
門川町	約90	約1,500	-	約60	約20	約40	-	約30	-	約120	約1,700
諸塚村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
椎葉村	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10
美郷町	-	約10	-	-	約10	約30	-	-	-	約20	約50
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約1,500	約26,000	約3,500	約14,000	約480	約1,000	約240	約1,600	約1,300	約7,100	約42,000

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 本想定では、被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→急傾斜地崩壊→津波→火災焼失」の順で想定することとしました。よって、耐震化によって「揺れ」による全壊が免れても、その後の「津波」によって全壊する場合もあり、耐震化によって、津波による被害が増える結果になりました。

⑨減災効果

死傷者数（日向灘北部地震 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約450	約80	約10	約10	-	約20	-	-	-	-	約30	約480
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
延岡市	約190	約10	約1600	約160	約10	約20	約480	約370	-	-	-	-	約680	約2,000
日南市	-	-	約10	約10	約10	約10	約10	約60	-	-	-	-	約10	約80
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	約130	約10	約930	約100	-	-	約580	約470	-	-	-	-	約720	約1,400
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
綾町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高鍋町	約20	-	約260	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約260
新富町	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約240	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約20	約240
都農町	約20	-	約170	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約40	-	約290	約30	-	-	約250	約230	-	-	-	-	約290	約520
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約490	約30	約4,500	約480	約40	約50	約1,300	約1,200	-	約10	-	-	約1,900	約5,700

- : わずか
 (注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果 死傷者数（日向灘北部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率約80% 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約450	約80	約10	約10	-	約20	-	-	-	-	約30	約480
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
延岡市	約190	約10	約1,600	約160	約10	約20	約400	約260	-	-	-	-	約610	約1,900
日南市	-	-	約10	約10	約10	約10	約10	約60	-	-	-	-	約10	約80
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	約130	約10	約930	約100	-	-	約510	約360	-	-	-	-	約640	約1,300
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
綾町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高鍋町	約20	-	約260	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約260
新富町	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約240	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約20	約240
都農町	約20	-	約170	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約180
門川町	約40	-	約290	約30	-	-	約230	約160	-	-	-	-	約270	約450
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約490	約30	約4,500	約480	約40	約50	約1,200	約880	-	約10	-	-	約1,700	約5,500

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化
+ 早期避難高

死傷者数（日向灘北部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約240	約70	約10	約10	-	-	-	-	-	-	約10	約240
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
延岡市	約70	約10	約710	約100	約10	約20	約20	約30	-	-	-	-	約100	約760
日南市	-	-	-	-	約10	約10	-	-	-	-	-	-	約10	約10
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	約60	-	約490	約70	-	-	約30	約50	-	-	-	-	約100	約550
串間市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西都市	約10	-	約120	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	約10	-	約120	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
新富町	-	-	約60	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約60
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
川南町	約10	-	約100	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約100
都農町	約10	-	約80	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約80
門川町	約10	-	約130	約20	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約30	約150
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約200	約20	約2,100	約340	約40	約50	約60	約100	-	-	-	-	約310	約2,300

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（日向灘南部地震 冬深夜 津波避難ビル無）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約370	約30	約3,300	約390	約10	約10	約310	約230	-	約20	-	-	約690	約3,500
都城市	-	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約140
延岡市	-	-	約70	約20	約10	約20	約10	約50	-	-	-	-	約20	約140
日南市	約130	約10	約920	約90	約10	約10	約60	約130	-	-	-	-	約200	約1,100
小林市	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約200	約20	-	-	約20	約70	-	-	-	-	約30	約270
串間市	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
西都市	約30	-	約300	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約300
えびの市	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	約10	-	約90	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約90
綾町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
高鍋町	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
新富町	約20	-	約190	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約190
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約250	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約260
都農町	-	-	約80	約10	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約10	約90
門川町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約640	約40	約6,100	約660	約40	約60	約430	約520	-	約20	-	-	約1,100	約6,700

- : わずか
 (注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果 死傷者数（日向灘南部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率約 80% 県民意識調査による早期避難者比率）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約370	約30	約3,300	約390	約10	約10	約190	約150	-	約20	-	-	約570	約3,400
都城市	-	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約140
延岡市	-	-	約70	約20	約10	約20	約10	約50	-	-	-	-	約20	約140
日南市	約130	約10	約920	約90	約10	約10	約60	約130	-	-	-	-	約200	約1,100
小林市	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約200	約20	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約20	約230
串間市	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約140
西都市	約30	-	約300	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約300
えびの市	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	約10	-	約90	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約90
綾町	-	-	約40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
高鍋町	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
新富町	約20	-	約190	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	約190
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約250	約10	-	-	約20	約10	-	-	-	-	約40	約260
都農町	-	-	約80	約10	-	-	約10	約20	-	-	-	-	約10	約90
門川町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約640	約40	約6,100	約660	約40	約60	約310	約390	-	約20	-	-	約990	約6,500

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

耐震化
+ 早期避難高

死傷者数（日向灘南部地震 冬深夜 現状の津波避難ビル有 耐震化率 90% 早期避難者比率高+呼びかけ）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約200	約20	約1,800	約290	約10	約10	約10	約10	-	約10	-	-	約210	約1,800
都城市	-	-	約60	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約60
延岡市	-	-	約30	約20	約10	約20	-	-	-	-	-	-	約10	約50
日南市	約50	-	約460	約60	約10	約10	約10	約10	-	-	-	-	約60	約480
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	-	-	約90	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約90
串間市	-	-	約50	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約60
西都市	約10	-	約130	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	約10	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約40	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約40
綾町	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約20
高鍋町	約10	-	約120	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約120
新富町	約10	-	約90	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約100
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
川南町	約10	-	約110	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約110
都農町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
門川町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約300	約30	約3,100	約510	約40	約60	約10	約20	-	約10	-	-	約360	約3,200

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（日向灘北部地震 冬深夜 仮に住民が全く避難しない場合）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	負傷者 (人)	(家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約10	-	約450	約80	約10	約10	約20	約70	-	-	-	-	約40	約530
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
延岡市	約190	約10	約1,600	約160	約10	約20	約1,600	約1,100	-	-	-	-	約1,800	約2,800
日南市	-	-	約10	約10	約10	約10	約20	約210	-	-	-	-	約20	約230
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	約130	約10	約930	約100	-	-	約1,800	約1,500	-	-	-	-	約2,000	約2,400
串間市	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	約10
西都市	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	約30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約30
綾町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高鍋町	約20	-	約260	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約260
新富町	約10	-	約130	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約130
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約240	約10	-	-	-	約20	-	-	-	-	約20	約260
都農町	約20	-	約170	約10	-	-	約50	約30	-	-	-	-	約70	約200
門川町	約40	-	約290	約30	-	-	約840	約770	-	-	-	-	約880	約1,100
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	約490	約30	約4,500	約480	約40	約50	約4,300	約3,700	-	約10	-	-	約4,900	約8,300

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

死傷者数（日向灘南部地震 冬深夜 仮に住民が全く避難しない場合）

市町村	建物倒壊				急傾斜地崩壊		津波		火災		ブロック塀他		合計	
	死者 (人)	(家具) 負傷者 (人)	約3,300 負傷者 (人)	約390 (家具) (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
宮崎市	約370	約30	約3,300	約390	約10	約10	約1,100	約780	-	約20	-	-	約1,400	約4,100
都城市	-	-	約130	約20	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約140
延岡市	-	-	約70	約20	約10	約20	約40	約180	-	-	-	-	約50	約270
日南市	約130	約10	約920	約90	約10	約10	約180	約430	-	-	-	-	約320	約1,400
小林市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
日向市	約10	-	約200	約20	-	-	約60	約230	-	-	-	-	約70	約440
串間市	約10	-	約130	約10	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10	約140
西都市	約30	-	約300	約30	-	-	/	/	-	-	-	-	約30	約300
えびの市	-	-	約10	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約10
三股町	-	-	約20	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約20
高原町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
国富町	約10	-	約90	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約90
綾町	-	-	約40	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	約40
高鍋町	約30	-	約270	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約270
新富町	約20	-	約190	約20	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	約190
西米良村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
木城町	約10	-	約70	約10	-	-	/	/	-	-	-	-	約10	約70
川南町	約20	-	約250	約10	-	-	約60	約20	-	-	-	-	約80	約280
都農町	-	-	約80	約10	-	-	約30	約60	-	-	-	-	約30	約130
門川町	-	-	約30	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	約10	約50
諸塚村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	/	/	-	-	-	-	-	-
合計	約640	約40	約6,100	約660	約40	約60	約1,400	約1,700	-	約20	-	-	約2,100	約7,900

- : わずか

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、市町村別の数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

資産等の被害

(単位：兆円)

分類	被害	日向灘北部		日向灘南部	
		減災前	減災後	減災前	減災後
建物被害	建物被害額	0.8	0.6	1.0	0.7
	家財資産被害額	0.008	0.007	0.02	0.02
	事業所償却資産被害額	0.1	0.09	0.1	0.1
	事業所棚卸資産被害額	0.05	0.04	0.06	0.04
ライフライン・インフラ施設被害	上水道被害額	0.01	0.01	0.01	0.01
	下水道被害額	0.05	0.05	0.08	0.08
	電気被害額	0.0007	0.0007	0.0001	0.0001
	通信被害額	0.003	0.003	0.003	0.003
	ガス被害額	0.002	0.002	0.002	0.002
	道路被害額	0.03	0.03	0.03	0.03
	鉄道被害額	0.009	0.009	0.01	0.01
	港湾被害額	0.04	0.04	0.04	0.04
	漁港被害額	0.04	0.04	0.04	0.04
その他土木施設被害	河川・海岸施設, 空港 等	0.05	0.05	0.06	0.06
土地の損壊・損失	農地被害額	0.02	0.02	0.02	0.02
災害廃棄物処理	災害廃棄物被害額	0.07	0.07	0.08	0.08
計		1.3	1.0	1.6	1.3

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

生産・サービス低下による影響

(単位：億円)

産業	日向灘北部		日向灘南部	
	減災前	減災後	減災前	減災後
農林水産業	38	30	49	39
鉱業	2	2	2	2
建設業	118	99	135	121
食料品製造業	111	84	112	86
輸送機械製造業	30	25	30	26
その他製造業	232	177	235	183
電気・ガス・水道業	80	54	102	68
運輸・通信業	173	132	247	191
卸売・小売業	170	114	216	143
金融・保険業	211	162	322	246
不動産業	203	140	279	186
サービス業	3,447	3,394	3,493	3,420
合計	4,816	4,413	5,223	4,710

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

⑨減災効果

交通寸断による影響

(単位：億円)

項目		復旧完了までに要する期間	日向灘北部		日向灘南部	
			減災前	減災後	減災前	減災後
道路	人流	1ヵ月の場合	63	62.8	59	58.5
		6ヵ月の場合	256	250.9	429	334.8
	物流	1ヵ月の場合	1,763	1,762.9	1,003	1,002.9
		6ヵ月の場合	2,711	2,707.3	3,594	2,570.0
鉄道	人流	3日間の場合	0		0	
		1ヵ月の場合	4		4	
空港		3日間の場合	2		2	
合計		道路が1ヵ月停止、 鉄道、空港が3日間 停止する場合	1,828	1,826	1,063	1,061
[参考] 港湾	物流	3日間の場合	0.4		0.1	

(注1) 今回の被害想定は、マクロの被害を把握する目的で実施しており、数値はある程度幅を持って見る必要があります。また、四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。